

科目名	看護学概論		科目ナンバリング	N-NP BN 2-00.H N	単位数	2単位	対象学年	1年	開講学期	前期
			科目コード	N30001	時間	30時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	幸山 靖子 (実務経験のある教員)			授業形態	講義	単独	
	アクティブラーニング	有								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>看護学概論では、「看護とは」なにかを探求する。そのため授業では、看護の歴史の変遷、看護を説明する概念、看護理論、看護の対象や役割など看護の基礎となる知識を学び、人間が健やかに生きることを支える看護のあり方、社会の中での看護の役割を理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの3-1, 2, 4-1, 5-1に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. 看護の対象・役割・機能が説明できる。</p> <p>2. 現在の看護に至るまでの歴史の変遷について説明できる。</p> <p>3. 主な看護理論の主要概念が理解できる。</p> <p>4. 自己の看護観を人に伝えることができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	コースオリエンテーション 看護の概念 (1)		1. 科目の位置づけ、授業の概要、履修上の留意事項 2. 看護とは						講義	
第2回	看護の概念 (2)		看護の語義・定義						講義	
第3回	看護の歴史の変遷 (1)		原始古代社会における看護、宗教上の信仰に基づいた看護、職業的看護の発達、看護の専門化の歩み						講義	
第4回	看護の歴史の変遷 (2)		ナイチンゲールの看護論						グループワーク	
第5回	看護の歴史の変遷 (3)		ナイチンゲールの看護論						プレゼンテーション	
第6回	看護の役割・機能 (1)		看護における健康とは						グループワーク	
第7回	看護の役割・機能 (2)		看護における健康とは						プレゼンテーション	
第8回	看護の対象 (1)		中間テスト/看護における人間の捉え方とは						講義	
第9回	看護の対象 (2)		看護における人間の捉え方とは						グループワーク	
第10回	看護の役割・機能 (3)		チームケア (医療) における看護の役割						講義/ グループワーク	
第11回	看護理論の変遷 (1)		主要な看護モデルと理論						講義	
第12回	看護理論の変遷 (2)		看護理論とは						グループワーク	
第13回	看護理論の変遷 (3)		看護理論とは						プレゼンテーション	
第14回	看護における倫理		看護実践と倫理						講義	
第15回	まとめ		まとめ						講義	
評価方法及び評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・2/3以上の出席者に対して、筆記試験 (80%)、レポート (20%) により評価します。 ・レポートは、授業の進行状況に合わせて随時提出を指示します。提出期限を過ぎたものは、原則として受け取りません。 									
課題等	グループワークを効果的に行うための課題を提示します。									
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・主題について関連する内容を事前学習してください。 ・週当たり3時間程度、授業外に自ら学修を進めましょう。 									
教材教科書参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・茂野香おる他：系統看護学講座専門分野Ⅰ基礎看護学 [1] 看護学概論 第17版, 医学書院, 2023. 978-4-260-03862-1 ・フロレンス・ナイチンゲール：湯楨ます他訳, 看護覚え書—看護であること 看護でないこと—第8版, 現代社, 2023. 978-4-87474-199-3 ・バージニア・ヘンダーソン：湯楨ます, 小玉香津子訳, 看護の基本となるもの, 日本看護協会出版会, 2016. 978-4-8180-1996-6 									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学ぶ姿勢をもって授業に臨んでください。また、医療をとりまくさまざまなニュースに注意し、看護との関連について考えてみましょう。 ・本科目の単位修得は、「基礎看護学実習Ⅰ」を履修するための必要要件になっていることに留意してください。 									

科目名	対象論		科目ナンバリング	N-NP NI 2-35. S N	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	N30036	時間	15時間				
区分	看護実践科目	選択	担当者名	阿部 智美 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
	アクティブラーニング	有								
授業の 概要等	〔授業の主旨〕									
	看護の対象を捉えるために必要な基礎的事項を学ぶ。また、基礎的な理論や事例等から看護の対象を理解する視点を養う。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3,5に関連し、カリキュラムポリシーの3-1, 2 5-1に関連する									
到達 目標	1. 看護の対象を捉えるために必要な基礎的事項が理解できる。 2. 基礎的な理論や事例等から看護の対象を理解する視点を養う。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容					備 考		
第1回	オリエンテーション 看護の対象理解		オリエンテーション 看護の対象（個人や集団）の理解					講義 グループワーク		
第2回	対象（個人）の理解		対象のニーズ 対象のとらえ方					講義 グループワーク		
第3回	発達段階に応じた対象の理解		小児期、成人期、老年期の理解					講義 グループワーク		
第4回	健康状態に応じた対象の理解		健康、障害、疾病の急性期、回復期、慢性期、終末期の理解					講義 グループワーク		
第5回	対象の生活・療養の場ごとの理解		病院、地域・在宅、施設での生活・療養					講義 グループワーク		
第6回	集団の理解		集団とは 集団の特性					講義 グループワーク		
第7回	看護の対象としての家族		家族とは 家族の機能の理解					講義 グループワーク		
第8回	看護の対象としての地域社会		地域社会の理解					講義 グループワーク		
評価 方法 及び 評価 基準	<ul style="list-style-type: none"> ・2/3以上の出席者に対して、振り返りシート（80%）、課題（20%）により評価します。 ・課題は授業の進行状況に合わせて随時提出を指示します。提出期限を過ぎたものは、原則として受け取りません。 									
課題等	グループワークを効果的に行うために課題を提示します。									
事前事 後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・主題について関連する内容を事前学習してください。 ・週当たり1.5時間程度、授業外に学修を進めましょう。 									
教材 教科書 参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・看護がみえるVol.5対象の理解I, メディックメディア, 2023. 978-4-89632-923-0 ・茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1]看護学概論 第17版, 医学書院, 2020. 978-4-260-03862-1 その他、適宜資料配布、参考書を紹介します。 									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は選択科目ではあるが、他の科目や臨地実習における対象理解の基礎となる。 ・授業ではグループワークにより、学生同士の意見交換を通して対象理解を深めていく。 									

科目名	医療・看護倫理		科目ナンバリング	N-NP BN 2-01.H N	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	N30002	時間	15時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	五十嵐 靖彦				授業 形態	講義	単独
	アクティブラーニング	無								
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 専門職としての看護業務を、適切かつ有効に遂行するための規範となる心構えや行動原理について、倫理的視点から考察する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシー1に関連し、カリキュラムポリシー1-1と関連している。</p>									
到達 目標	<p>1) 看護とは人間関係一般の中でも、特殊・微妙な職域であることを理解できる。 2) その業務を全うする上では、特に倫理的配慮が大切であることを理解できる。 3) その倫理的配慮の中では、なによりも生命の尊厳、人権の尊重という価値観を深く身に付ける。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	倫理とは		倫理の語義とそれを研究する倫理学についての説明						10/4(金)3限	
第2回	倫理一般と領域倫理		社会人として心得るべき一般倫理と職域ごとの特殊化される倫理について						10/11(金)3限	
第3回	医の倫理について		医療に関連した職域分野の種々の倫理綱領について						10/18(金)3限	
第4回	看護倫理の概念と歴史		ナイチンゲールから現代までの看護倫理の歩み						10/25(金)3限	
第5回	看護関連のキーワードの解説		人間の尊厳、インフォームド・コンセント、アドボカシー等々						11/1(金)3限	
第6回	同上		続講						11/8(金)3限	
第7回	看護研究と倫理的配慮		研究倫理を審査する倫理委員会について						11/15(金)3限	
第8回	事例研究		こういう場合どう判断し、どう行動すればよいか						11/22(金)3限	
評価 方法 及び 評価 基準	平常点（出席状況や授業中の受け答え 10%）と期末テストの成績（90%）の合算。									
課題等	なし									
事前事 後学修	なし									
教材 教科書 参考書	教科書は使用しない。毎回資料を配付する。 参考文献は以下 五十嵐靖彦著『現代社会と倫理』花伝社 2019 石井トク編『看護倫理』学研プラス 2014、小西恵美子他編『看護倫理』南江堂 2012 島崎玲子他編『看護学概論』4版 医歯薬出版 2012 盛永審一郎他編『看護学生のための医療倫理』丸善出版 2012									
留意点	毎回授業の終わりに、次回の授業に関連したテーマや文献について当たっておくようにと指示する。配付される資料はかなりの量になるはずなので、散失しないよう整理し保存すること。									

科目名	看護過程論		科目ナンバリング	N-NP BN 2-02. H N	単位数	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	N30003	時間	30時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	幸山 靖子 (実務経験のある教員)				授業 形態	講義	単独
	アクティブラーニング	有								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 看護援助の目的を理解し、看護の対象のニーズに応じた問題を解決するために、科学的思考、問題解決的思考を基に看護の過程における問題解決の方法を習得する。看護を展開するための基礎的知識を用いてクリティカルシンキング能力を養う。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3. 4. 5に関連し、カリキュラムポリシーの3-1, 2、4-1、5-1に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程の概念、概要、意義を理解できる。 2. 看護過程におけるアセスメント、看護診断、看護目標、看護計画、実施、評価を理解できる。 3. 紙上事例を用いた看護過程を展開し、看護計画を立案できる。 4. 看護実践における記録の必要性・方法を理解できる。 5. 看護過程の学習を通して、看護における科学的・論理的思考の必要性を理解できる。 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	オリエンテーション 看護過程の概要と構成要素 問題解決過程と看護過程			<ol style="list-style-type: none"> 1. 科目の位置づけ、授業の概要、履修上の留意事項 2. 看護過程の概要と構成要素 3. 問題解決過程と看護過程 				講義		
第2回	看護過程を展開する際に基盤となる考え方 看護アセスメントの枠組み			<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程の段階（ステップ） 2. 看護アセスメントの枠組み 3. 看護過程におけるアセスメント（情報収集、解釈/統合） 				講義		
第3回	ゴードンの機能的健康パターン			<ol style="list-style-type: none"> 1. ゴードンの機能的健康パターン 2. ペーパーパーシェントの説明 				講義/グループワーク		
第4回	アセスメントー1			アセスメント（演習ー1）：ペーパーパーシェントのアセスメント				グループワーク		
第5回	アセスメントー2			アセスメント（演習ー2）：ペーパーパーシェントのアセスメント				グループワーク		
第6回	看護上の問題の明確化と看護診断			<ol style="list-style-type: none"> 1. アセスメントから看護診断へ 2. N A N D A - I 看護診断分類Ⅱ 3. 共同問題 				講義		
第7回	アセスメントー3			アセスメント（演習ー3）：ペーパーパーシェントのアセスメント				グループワーク		
第8回	全体像（関連図）とは			<ol style="list-style-type: none"> 1. 全体像（関連図）とは 2. 全体像（関連図）作成について 3. 看護診断、優度順位の決定 				講義		
第9回	全体像（関連図）とは			全体像（演習ー1）				講義/グループワーク		
第10回	看護診断・優先順位の決定			全体像（演習ー2）：看護診断、優先順位の決定				グループワーク		
第11回	看護計画			<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護計画とは 2. 看護計画の構成要素 				講義		
第12回	看護計画ー1			看護計画（演習ー1）：ペーパーパーシェントの看護計画				講義/グループワーク		
第13回	看護計画ー2			看護計画（演習ー2）：ペーパーパーシェントの看護計画				グループワーク		
第14回	看護記録			<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護記録の意義および目的、その種類 2. 看護記録における法的規制 3. 看護記録のあり方（秘密保持や責任の所在、保管上の留意事項） 				講義		
第15回	発表会			事例の看護計画について				プレゼンテーション		
評価方法及び評価基準	2/3以上の出席者に対して、筆記試験（80%）、レポート（20%：4回分）により評価します。レポートは授業の進行状況に合わせて随時提出を指示します。提出期限を過ぎたものは、原則として受け取りません。									
課題等	グループワークを効果的に行うための課題を提示します。									
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・事例を提示し、事前学習課題を配布します。 ・週当たり3時間程度、授業外に自ら学修を進めましょう。 									
教材教科書参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・任和子編著：実習記録の書き方がわかる看護過程展開ガイド、照林社、2016。ISBN978-4-7965-2344-8 ・T.ヘザー・ハードマン：上鶴重美訳、N A N D A - I 看護診断 定義と分類2021-2023、医学書院、2021。ISBN978-4-260-04628-2 03443-2 その他、適宜資料配布、参考書を紹介します。 									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークは学生が主体となって進めますので、そのための準備をして臨みましょう。 ・関連科目、特に「人体の構造」「人体の機能」「看護学概論」「基礎看護技術論」のテキスト、その他の参考書や資料を持参してください。 ・本科目の単位修得は、「基礎看護学実習Ⅱ」を履修するための必要条件になっていることに留意してください。 									

科目名	基礎看護技術論		科目ナンバリング	N-NP BN 2-03. H N	単位数	1単位	対象学年	1年	開講学期	前期
			科目コード	N30004	時間	30時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	幸山 靖子、阿部 智美 (実務経験のある教員)				授業形態	演習	複数
	アクティブラーニング	有								
授業の概要等	<p>[授業の主旨]</p> <p>看護の対象の日常生活を整え、より健康な状態にするための基本的な技術について、援助技術ひとつひとつの基礎となる要素とその根拠を学習する。看護の対象との相互関係において看護を実践できる能力の基礎を養う。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]</p> <p>ディプロマポリシーの3,5に関連し、カリキュラムポリシーの3-1, 2 5-1に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間を対象とする技術の構成要素および看護技術とは何かを理解する。 2. 看護行為に共通する援助技術の意義と方法について、基礎的知識を理解する。 3. 看護場面に共通する安全・安楽を守るための基本技術を習得する。 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	オリエンテーション 看護技術とは何か		オリエンテーション 看護技術の特徴と構成						講義(幸山)	
第2回	人間関係を成立・発展させるための技術		コミュニケーションの概念、コミュニケーションの基本原則、 コミュニケーションを成立させる要素、対人関係の振り返り						講義(阿部)	
第3回	快適な環境をつくる技術		看護における環境の意義と病床の環境、環境のアセスメント						講義(阿部)	
第4回	快適な環境をつくる技術 (1)		環境整備、ベッドメイキング						幸山・阿部 演習/グループワーク	
第5回	快適な環境をつくる技術 (2)		環境整備、ベッドメイキング						幸山・阿部 演習/グループワーク	
第6回	安全を守る技術		医療安全の意義と確保、主な医療事故とその予防策						講義(幸山)	
第7回	休息・睡眠を促す技術		休息・睡眠の意義、休息・睡眠の生理学的メカニズム、休息・睡眠の ニーズに関するアセスメント						講義(幸山)	
第8回	まとめ		授業の総括(中間)						幸山	
第9回	活動・運動を支援する技術		移動と移送(車椅子、ストレッチャー)						講義(阿部)	
第10回	活動・運動を支援する技術 (1)		移動と移送(車椅子、ストレッチャー)						幸山・阿部 演習/グループワーク	
第11回	活動・運動を支援する技術 (2)		移動と移送(車椅子、ストレッチャー)						幸山・阿部 演習/グループワーク	
第12回	食事・栄養摂取を促す技術 (1)		食事・栄養の意義、食事に関する生理学的メカニズム 栄養状態のアセスメント						講義(阿部)	
第13回	食事・栄養摂取を促す技術 (2)		食事・栄養の意義、食事に関する生理学的メカニズム 栄養状態のアセスメント						講義 (ゲストスピーカー)	
第14回	食事・栄養摂取を促す技術		食事・栄養の意義、食事に関する生理学的メカニズム 栄養状態のアセスメント、食事・栄養に関する援助方法						幸山・阿部 演習/グループワーク	
第15回	まとめ		授業・演習の総括						幸山、阿部	
評価方法 及び 評価 基準	<ul style="list-style-type: none"> ・2/3以上の出席者に対して、定期試験(90%)、受講態度・レポート(10%)により評価します。 ・レポートは授業の進行状況に合わせて随時提出を指示します。提出期限を過ぎたものは、原則として受け取りません。 									
課題等	課題にはコメントを追加し、返却します。									
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・講義前には事前学習課題を配布します。演習前の事前学習、演習後の振り返りを提出してください。 ・週当たり1.5時間程度、授業外に学修を進めましょう。 									
教材 教科書 参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ナーシング・グラフィカ 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ, メディカ出版, 2022. 978-4-8404-7536-5 ・ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ, メディカ出版, 2022. 978-4-8404-7537-2 ・根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第3版, 医学書院, 2021. 978-4-260-04790-6 その他、適宜資料配布、参考書を紹介いたします。 									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の授業科目、特に「人体の構造Ⅰ」「人体の機能Ⅰ」を復習し、実践方法の根拠として関連させて学習するようにしてください。 ・自己学習や看護技術の反復練習に励むことが必要です。 ・「基礎看護学実習Ⅰ」の履修要件の科目であることに注意しましょう。 									

科目名	基礎看護技術演習Ⅰ		科目ナンバリング	N-NP BN 2-04. H N	単位数	1単位	対象学年	1年	開講学期	前期
			科目コード	N30005	時間	30時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	阿部 智美、幸山 靖子 (実務経験のある教員)				授業形態	演習	複数
	アクティブラーニング	有								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>基礎看護技術論を基礎に、看護の対象の日常生活を整え、より健康な状態にするための基本的な技術について、援助技術ひとつひとつの基礎となる要素とその根拠を学習する。演習では患者・看護師のロールプレイを通して、看護における人間関係のあり方も理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの3,5に関連し、カリキュラムポリシーの3-1,2 5-1に関連する</p>									
到達目標	<p>1. 対象者の日常生活を援助する援助技術の基礎となる要素とその根拠を理解する。</p> <p>2. 看護場面に共通する安全・安楽を守るための基本技術を習得する。</p> <p>3. 看護職者として必要な態度を身につける。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	感染予防を推進する技術			感染予防の意義 感染症を成立させる要素と成立過程 感染予防のための援助方法				阿部		
第2回	感染予防を推進する技術			手指衛生：流水と石けんによる手洗い 擦式消毒用アルコール製剤による手指消毒				阿部・幸山 演習 グループワーク		
第3回	安楽かつ快適さを確保する技術			安楽な体位 ボディメカニクス 体位変換				阿部		
第4回	安楽かつ快適さを確保する技術			体位変換とボディメカニクス				阿部・幸山 演習 グループワーク		
第5回	ヘルスアセスメント バイタルサインの測定			バイタルサインとは 意識 呼吸				阿部		
第6回	ヘルスアセスメント バイタルサインの測定			体温 脈拍 血圧				阿部		
第7回	検査・治療を安全かつ正確に行う技術			結果の解釈と報告 身体計測				阿部		
第8回	ヘルスアセスメント バイタルサインの測定			バイタルサインの測定方法				阿部・幸山 演習 グループワーク		
第9回	ヘルスアセスメント バイタルサインの測定			バイタルサインの測定方法				阿部・幸山 演習 グループワーク		
第10回	技術チェック							阿部・幸山		
第11回	技術チェック							阿部・幸山		
第12回	まとめ			講義の総括				阿部		
第13回	ヘルスアセスメント バイタルサインの測定			バイタルサインの測定方法				阿部・幸山 演習 グループワーク		
第14回	検査・治療を安全かつ正確に行う技術			身体計測				阿部・幸山 演習 グループワーク		
第15回	まとめ			演習の振り返り				阿部		
評価方法及び評価基準	2/3以上の出席者に対して、筆記試験（45%）、実技試験（40%）、レポート（15% 5回分）により評価する。レポートは授業の進行状況に合わせて随時提出を指示する。提出期限を過ぎたものは、原則として受け取らない。									
課題等	課題にはコメントを追加し、返却する。									
事前事後学修	講義前には事前学習課題を配布する。演習前の事前学習、演習後の振り返りを提出する。週当たり1.5時間程度の授業外の学修が必要である。									
教材教科書参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ナーシング・グラフィカ 基礎看護学（2）基礎看護技術Ⅰ，メディカ出版，2022. 978-4-8404-7536-5 ・ナーシング・グラフィカ 基礎看護学（3）基礎看護技術Ⅱ，メディカ出版，2022. 978-4-8404-7537-2 ・根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第3版，医学書院，2021. 978-4-260-04790-6 ・看護がみえるVol. 3フィジカルアセスメント，メディックメディア，2019. 978-4-89632-781-0 その他、適宜資料配布、参考書を紹介する 									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の授業科目、特に「人体の構造」「人体の機能」を復習し、実践方法の根拠として関連させて学習すること。 ・自己学習や看護技術の反復練習に励むことが必要である。 ・Webを利用した講義を行い、事前学習においてもWebを利用して動画視聴等を行う。 ・「基礎看護学実習Ⅰ」の履修要件の科目であることに注意すること。 									

科目名	基礎看護技術演習Ⅱ		科目ナンバリング	N-NP BN 2-05. H N	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	N30037	時間	30時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	阿部 智美、幸山 靖子 (実務経験のある教員)				授業 形態	演習	複数
	アクティブラーニング	有								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>基礎看護技術論・基礎看護技術演習Ⅰを基礎に、看護の対象の日常生活を整え、より健康的な状態にするための基本的な技術について、援助技術ひとつひとつの基礎となる要素とその根拠を学習する。清拭・寝衣交換、洗髪・部分浴、排泄の援助などの援助技術を習得する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの3,5に関連し、カリキュラムポリシーの3-1,2 5-1に関連する</p>									
到達目標	<p>1. 対象者の日常生活を援助する援助技術の基礎となる要素とその根拠を理解する。</p> <p>2. 看護場面に共通する安全・安楽を守るための基本技術を習得する。</p> <p>3. 看護職者として必要な態度を身につける。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	身体の清潔を援助する技術			清潔の意義 皮膚・粘膜の生理的メカニズム 清潔ニーズのアセスメント 清潔の援助方法				阿部		
第2回	身体の清潔を援助する技術			演習：臥床患者の寝衣交換				阿部・幸山 演習 グループワーク		
第3回	身体の清潔を援助する技術			清潔の援助方法				阿部		
第4回	身体の清潔を援助する技術			演習：臥床患者の全身清拭 寝衣交換①				阿部・幸山 演習 グループワーク		
第5回	身体の清潔を援助する技術			演習：臥床患者の全身清拭 寝衣交換②				阿部・幸山 演習 グループワーク		
第6回	身体の清潔を援助する技術			清潔の援助方法				阿部		
第7回	身体の清潔を援助する技術			演習：臥床患者の洗髪①				阿部・幸山 演習 グループワーク		
第8回	身体の清潔を援助する技術			演習：臥床患者の洗髪②				阿部・幸山 演習 グループワーク		
第9回	身体の清潔を援助する技術			演習：部分浴（足浴）				阿部・幸山 演習 グループワーク		
第10回	感染予防を推進する技術			感染症を予防するための技術				阿部		
第11回	感染予防を推進する技術			演習：無菌操作（滅菌手袋の着脱 滅菌物の取り扱い）				阿部・幸山 演習 グループワーク		
第12回	排泄を促す技術			排尿・排便の意義と生理学的メカニズム 排尿・排便のニーズのアセスメント				阿部		
第13回	排泄を促す技術			排尿・排便の援助				阿部		
第14回	排泄を促す技術			演習：導尿				阿部・幸山 演習 グループワーク		
第15回	排泄を促す技術			演習：浣腸				阿部・幸山 演習 グループワーク		
評価方法及び評価基準	2/3以上の出席者に対して、筆記試験（40%）、実技試験（40%）、レポート（20% 6回分）により評価する。レポートは授業の進行状況に合わせて随時提出を指示する。提出期限を過ぎたものは、原則として受け取らない。									
課題等	課題にはコメントを追加し、返却する。									
事前事後学修	講義前には事前学習課題を配布する。演習前の事前学習、演習後の振り返りを提出する。週当たり1.5時間程度の授業外の学修が必要である。									
教材教科書参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ナーシング・グラフィカ 基礎看護学（2）基礎看護技術Ⅰ，メディカ出版，2022. 978-4-8404-7536-5 ・ナーシング・グラフィカ 基礎看護学（3）基礎看護技術Ⅱ，メディカ出版，2022. 978-4-8404-7537-2 ・根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第3版，医学書院，2021. 978-4-260-04790-6 その他、適宜資料配布、参考書を紹介する 									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の授業科目、特に「人体の構造ⅠⅡ」「人体の機能ⅠⅡ」を復習し、実践方法の根拠として関連させて学習すること。 ・自己学習や看護技術の反復練習に励むことが必要である。 ・Webを利用した講義を行い、事前学習においてもWebを利用して動画視聴等を行う。 ・「基礎看護学実習Ⅰ」の履修要件の科目であることに注意すること。 									

科目名	基礎看護技術演習Ⅲ		科目ナンバリング	N-NP BN 2-06. H N	単位数	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	N30038	時間	30時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	阿部 智美、幸山 靖子 (実務経験のある教員)				授業 形態	演習	複数
	アクティブラーニング	有								
授業の 概要等	<p>[授業の主旨]</p> <p>基礎看護技術論・基礎看護技術演習ⅠⅡを基礎に、主に治療を受けている患者に治療・処置を安全かつ安楽に行う援助方法を学ぶ。与薬、酸素療法などの基本的治療行為の援助技術について習得する。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]</p> <p>ディプロマポリシーの3, 5に関連し、カリキュラムポリシーの3-1, 2 5-1, 2に関連する</p>									
到達 目標	<p>1. 生命活動を支える技術、治療・処置に伴う援助技術の意義と方法について、基礎的知識を理解する。</p> <p>2. 治療・処置を受ける対象者の心身の状態を理解し、援助方法を習得する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	検査・治療を安全かつ正確に行う技術			検査とは 検査の援助 治療・処置				阿部		
第2回	検査・治療を安全かつ正確に行う技術			演習：静脈血採血①				阿部・幸山 演習 グループワーク		
第3回	検査・治療を安全かつ正確に行う技術			演習：静脈血採血②				阿部・幸山 演習 グループワーク		
第4回	与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術			与薬とは 薬物療法と看護 与薬のための基礎知識 与薬における安全管理				阿部		
第5回	与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術			与薬のための援助技術 注射のための援助技術				阿部		
第6回	与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術			演習：皮下・筋肉内注射①				阿部・幸山 演習 グループワーク		
第7回	与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術			演習：皮下・筋肉内注射②				阿部・幸山 演習 グループワーク		
第8回	与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術			注射のための援助技術 輸血のための援助技術				阿部		
第9回	与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術			演習：点滴静脈内注射①				阿部・幸山 演習 グループワーク		
第10回	与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術			演習：点滴静脈内注射②				阿部・幸山 演習 グループワーク		
第11回	呼吸を楽にする技術			呼吸とは 呼吸の生理学的メカニズム 呼吸のニーズに関するアセスメント				阿部		
第12回	呼吸を楽にする技術			呼吸を楽にする援助				阿部		
第13回	呼吸を楽にする技術			演習：酸素療法 一時的吸引法				阿部・幸山 演習 グループワーク		
第14回	皮膚・創傷を管理する技術			皮膚・創傷を管理するための基礎知識 創傷の分類と治癒過程 創傷の管理 褥瘡の管理				阿部		
第15回	体温を調節する技術			体温調節 電法				阿部		
評価 方法 及び 評価 基準	2/3以上の出席者に対して、筆記試験(45%)、実技試験(40%)、レポート(15% 5回分)により評価する。レポートは授業の進行状況に合わせて随時提出を指示する。提出期限を過ぎたものは、原則として受け取らない。									
課題等	課題にはコメントを追加し、返却する。									
事前事 後学修	講義前には事前学習課題を配布する。演習前の事前学習、演習後の振り返りを提出する。週当たり1.5時間程度の授業外の学修が必要である。									
教材 教科書 参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ナーシング・グラフィカ 基礎看護学(2) 基礎看護技術Ⅰ, メディカ出版, 2022. 978-4-8404-7536-5 ・ナーシング・グラフィカ 基礎看護学(3) 基礎看護技術Ⅱ, メディカ出版, 2022. 978-4-8404-7537-2 ・根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第3版, 医学書院, 2021. 978-4-260-04790-6 その他、適宜資料配布、参考書を紹介する 									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の授業科目、特に「人体の構造ⅠⅡ」「人体の機能ⅠⅡ」を復習し、実践方法の根拠として関連させて学習すること。 ・自己学習や看護技術の反復練習に励むことが必要である。 ・Webを利用した講義を行い、事前学習においてもWebを利用して動画視聴等を行う。 									

科目名	ヘルスアセスメント		科目ナンバリング	N-NP BN 2-07. H N	単位数	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	N30007	時間	30時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	幸山靖子、阿部智美、宇田宗弘、田中真実 (実務経験のある教員も含む)				授業 形態	講義	オムニバス
	アクティブラーニング	無								
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 人体の構造や機能、基礎看護技術論、基礎看護技術演習Ⅰで学んだ内容などをふまえ、フィジカルイグザミネーションの基本的技術を学習する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3、5に関連し、カリキュラムポリシーの3-1、2、5-1に関連している。									
	到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護におけるヘルスアセスメントの概念について理解できる。 2. 対象者の主観的・客観的情報を収集するための問診や基本的なフィジカルイグザミネーションを実施する方法を明確にすることができる。 3. 事例を用いて、対象者の身体的および心理・社会的側面から情報を系統的に収集し、対象者の健康状態、生活状況を判断できるための、ヘルスアセスメントの方法について考えることができる。 4. ヘルスアセスメントを行った内容から看護の必要性を述べることができる。 								
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	コースオリエンテーション 看護におけるヘルスアセスメント			看護におけるヘルスアセスメントとは フィジカルアセスメントとは				講義(幸山)		
第2回	フィジカルアセスメントの基本技術			フィジカルイグザミネーションの基本技術 面接・問診、観察からのアセスメント				講義/演習 (グループワーク) (幸山)		
第3回	人体の解剖			人体の部位・器官の位置・方向の確認				講義(田中)		
第4回	呼吸器系・循環器系のヘルスアセスメント			心臓・血管系のヘルスアセスメント				講義(宇田)		
第5回	呼吸器系のヘルスアセスメント			呼吸器系のヘルスアセスメント				講義(幸山)		
第6回	呼吸器系のヘルスアセスメント			呼吸器系のヘルスアセスメント				演習/プレゼンテーション (幸山・阿部)		
第7回	心臓・血管系のヘルスアセスメント			心臓・血管系のヘルスアセスメント				講義(幸山)		
第8回	心臓・血管系のヘルスアセスメント			心臓・血管系のヘルスアセスメント				演習/プレゼンテーション (幸山・阿部)		
第9回	消化器系のヘルスアセスメント			消化器系のヘルスアセスメント				講義(宇田)		
第10回	消化器系のヘルスアセスメント			消化器系のヘルスアセスメント				講義(阿部)		
第11回	消化器系のヘルスアセスメント			消化器系のヘルスアセスメント				演習/プレゼンテーション (阿部・幸山)		
第12回	筋・骨格系・神経系のヘルスアセスメント			筋・骨格系・神経系のヘルスアセスメント				講義(ゲストスピーカー)		
第13回	筋・骨格系・神経系のヘルスアセスメント			筋・骨格系・神経系のヘルスアセスメント				講義(ゲストスピーカー)		
第14回	筋・骨格系・神経系のヘルスアセスメント			筋・骨格系・神経系のヘルスアセスメント				演習/プレゼンテーション (幸山・阿部)		
第15回	まとめ			授業の総括				講義/演習 (幸山・阿部)		
評価 方法 及び 評価 基準	2/3以上の出席者に対して、定期試験(80%)、レポート(20%:4回分)により評価します。 レポートは授業の進行状況に合わせて随時提出を指示します。提出期限を過ぎたものは、原則として受け取りません。									
課題等	課題にはコメントを追加し、返却します。									
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習課題や演習後の振り返りを提出してください。 ・週当たり3時間程度、授業外に学修を進めましょう。 									
教材 教科書 参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能①解剖生理学(第5版)、武田裕子・林正健二 編、MCメディカ出版、978-4-8404-7831-1 ・ぜんぶわかる人体解剖図、成美堂、坂井建雄、橋本尚詞、978-4-415-30619-3 ・ナーシング・グラフィカ 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ、メディカ出版、2022、978-4-8404-7536-5 ・看護がみえるvol.3 フィジカルアセスメント、メディックメディア、2019、978-4-89632-781-6 その他、適宜資料配布、参考書を紹介します。 									
留意点	既習の授業科目、特に「人体の構造Ⅰ」「人体の機能Ⅰ」を復習し、実践方法の根拠として関連させて学習しましょう。									

科目名	地域包括ケアシステム論		科目ナンバリング	N-NP NI 2-42. H N	単位数	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	N30059	時間	30時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	中尾 八重子・日下 純子 (実務経験のある教員)				授業 形態	講義	複数
	アクティブラーニング	有								
授業の概要	<p>[授業の主旨] 住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けることができるような地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）について学習する。また、「生活」の構成要因に基づき地域のケアシステムの現状と課題を理解し、看護職が果たす役割を学ぶ。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシー3、5に関連し、カリキュラムポリシー3-1、5-1に関連する</p>									
到達目標	<p>1. 地域包括の概念を理解し、地域包括ケアシステムの目指しているものを説明できる。 2. 「生活」の構成要因を記述できる。 3. 地域包括ケアの取り組みの実際から専門職および看護職の役割を説明できる。 4. 地域包括ケアにおける多様な専門職および地域の人々との連携・協働の意義を説明できる</p>									
回	主 題			授業内容（授業時間外の学修を含む）					備考	
1	地域包括ケア・システムとは			地域包括ケアシステムの背景と目的					中尾	
2	生活とは			演習：自身の日常生活を「生活者」の視点で捉える					中尾 グループワーク	
3	生活の構成要因			演習：「生活」の構成要因					中尾 グループワーク	
4	生活と保健・医療・福祉			保健・医療・福祉とは 地域包括支援センター					中尾	
5	地域包括ケア・システムの実際（1）			子育て世代の健康課題					日下	
6	地域包括ケア・システムの実際（1-2）			子育て世代への支援の実際						
7	ケアの担い手と制度（1）			演習：事例（6回）の支援者・支援機関・活用制度					中尾 グループワーク	
8	地域包括ケア・システムの実際（2）			高齢者・精神障害者の健康課題					日下	
9	地域包括ケア・システムの実際（2-2）			高齢者への支援の実際						
10	地域包括ケア・システムの実際（3）			精神障がい者への支援の実際						
11	ケアの担い手と制度（2）			演習：事例（9・10回）の支援者・支援機関・活用制度					中尾 グループワーク	
12	ケアの担い手と制度（3）			発表（自身の発表）					中尾 プレゼンテーション	
13	ケアの担い手と制度（4）			発表（他グループの発表）						
14	地域包括ケアシステムの構築			多職種連携 自助・互助・共助・公助					中尾	
15	地域包括ケアと看護			看護の役割						
評価方法及び評価基準	<p>1) 2/3以上の出席者につき、課題（個人・グループ）、定期試験等から総合的に評価する。 2) 演習：40% 3) 定期試験60%</p>									
課題等	課題（レポート）は、返却しない。									
事前事後学修	地域包括ケア・地域包括ケアシステム・高齢者支援等に関するニュース等から情報を収集する。									
教材教科書参考書	教科書：「地域包括ケアシステムの基礎的理解と実践」 編著 関永 信子 翔雲社 2021年 ISBN 978-4-910135-00-7 ・随時、必要な資料等を配布する。									
留意点	<p>1) ニュース等を視聴し、社会で起きていることに関心を持つこと。 2) 課題に主体的に取り組むこと。</p>									

科目名	在宅療養を支える看護		科目ナンバリング	N-NP NI 2-60. H N	単位数	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期	
			科目コード	N30060	時間	60時間					
区分	看護実践科目	必修	担当者名	高田 まり子、對馬 明美 (実務経験のある教員)			授業 形態	演習	複数		
	アクティブラーニング	有									
授業の 概要	対象学年変更につき、今年度開講しません。										
到達 目標											
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修			備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修			備考
第1回						第16回					
第2回						第17回					
第3回						第18回					
第4回						第19回					
第5回						第20回					
第6回						第21回					
第7回						第22回					
第8回						第23回					
第9回						第24回					
第10回						第25回					
第11回						第26回					
第12回						第27回					
第13回						第28回					
第14回						第29回					
第15回						第30回					
評価 方法 及び 評価 基準											
課題等											
事前事後 学修											
教材 教科書 参考書											
留意点											

科目名	地域連携論		科目ナンバリング	N-NP NI 2-36. S N	単位数 時間	1単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	N30046		15時間				
区分	看護実践科目	選択	担当者名	高田 まり子 (実務経験のある教員)				授業 形態	講義	単独
	アクティブラーニング	無								
授業の概要	<p>[授業の主旨] 健康な生活を送るための支援において、地域における多職種との連携の実際について説明し、多職種連携の考え方、実態と課題、及び方法を考える。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの3、5に関連し、カリキュラムポリシー教育方法の3に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. 多職種連携の理論・動向・実際について理解できる。 2. 多職種連携の課題と方法について理解できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容（授業時間外の学修を含む）						備考	
第1回	地域連携の基礎理論		日本の医療の背景・特徴を理解し、ケアサイクル論を学ぶ						講義	
第2回	多職種連携の動向と課題		地域におけるインテグレイティド・ケア推進の概念を理解する						講義	
第3回	地域連携の政策と多職種連携		多職種連携・協働の推進に向けた政策の動向を理解する						講義	
第4回	地域包括ケアにおける病院の役割		病院が取り組む地域包括ケアと地域連携を理解する						講義	
第5回	地域連携の実践と専門職（1）		退院支援から地域連携における看護師の役割を理解する						個人演習	
第6回	地域連携の実践と専門職（1）		退院支援から地域連携における看護師の役割を理解する						個人演習	
第7回	地域連携の実践と専門職（1）		退院支援から地域連携における看護師の役割を理解する						個人演習の成果を発表しディスカッション	
第8回	地域連携の実践と専門職（2）		自治体における地域連携と地域ケア会議について理解する						講義	
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
評価方法及び評価基準	<p>1) 2/3以上の出席者につき、出席状況、振り返りシート、定期試験等を組み合わせて総合的に評価する。 2) 定期試験(70点)、個人演習レポート。振り返りシート(30点)</p>									
課題等	振り返りシートはその都度返却する。第5回～6回に課題を提示する。個人演習後グループディスカッションを行う。									
事前事後学修	地域包括ケアシステム論の復習をして臨むこと									
教材教科書参考書	<p>1) 2年次の「地域包括ケアシステム論」講義で使用した教科書 2) 適宜講義資料・参考文献を提示する</p>									
留意点	<p>1) 授業で紹介された文献などの自己学習による積み重ねが重要である。 2) 授業で学んだことを、日頃の学習及び社会活動に活かす。 3) 社会の動きや出来事など、日頃のニュースにも関心を持ち、情報を的確に把握することが不可欠である。</p>									

科目名	家族看護学		科目ナンバリング	N-NP NI 2-37. H N	単位数 時 間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	N30013		15時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	大瀬富士子 土屋陽子 齊藤史恵 (実務経験のある教員)				授業 形態	講義	複数
	アクティブラーニング	有								
授業の 概要	<p>[授業の主旨] 家族を支援するために、家族とはどのようなことをいうのか、そのあり様を学ぶ。また、家族を理解するための理論を理解し、家族に対する支援方法を学習する。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの3に関連し、カリキュラムポリシー教育課程の3-1, 3-2に関連している。</p>									
到達 目標	<p>1. 家族が果たしている役割と多様性を理解する。 2. 家族をひとつのシステムとして捉え、家族の関係性を理解する。 3. 家族の構造、発達、機能を理解する。 4. 家族の重要性を確認し、様々な疾患や障害、家族の発達段階に応じた家族への看護援助のあり方を、事例を通じて理解する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容（授業時間外の学修を含む）						備考	
第1回	家族看護学とは何か 家族とは、日本の家族の変遷		家族看護学とは 家族看護の定義・目的および家族の対処能力について						11/19(火)5限 大瀬	
第2回	家族を理解する		発達する家族、家族周期、健康問題への家族の対処能力						11/26(火)5限 大瀬	
第3回	家族の構造を明らかにする		ジェノグラムとエコマップ						12/3(火)5限 大瀬	
第4回	家族と病気		健康な家族とはどういう状態か、また、病は家族にどのような影響を与えるのか						12/10(火)4限 大瀬	
第5回	家族内の役割・機能・レジリエンス		家族のアセスメントの方法、家族看護方法						12/17(火)4限 大瀬	
第6回	事例で学ぶ家族看護過程（1）		障がい、疾患と共に生きる患者と家族の看護						1/7(火)4限 土屋	
第7回	事例で学ぶ家族看護過程（2）		家族の多様性を尊重した看護						1/14(火)4限 齊藤	
第8回	家族の看護とは		家族を支える看護						1/21(火)4限大瀬 グループワーク	
評価 方法 及び 評価 基準	<p>1) 2/3以上の出席者につき、出席状況、リフレクションペーパー、定期試験等を組み合わせ総合的に評価する。 2) リフレクションペーパー：全ての授業終了後に提出することで、5点を加算する。 3) 定期試験：試験結果は満点を95%として評価する。</p>									
課題等	グループワークの課題を提示します。									
事前事後学修	事前および事後学習として、教科書を読み、自分の興味や関心を明らかにしておくこと。									
教材 教科書 参考書	<p>・教科書：家族看護学 改訂第2版 南江堂 2021 ISBN978-4-524-25708-9 ・参考図書：宮本ふみ 無名のかたり 医学書院 ISBN4-260-00352-6 ・講義の中で、随時、参考図書を紹介する。</p>									
留意点	<p>1) 授業で紹介された文献などの自己学習による積み重ねが重要である。 2) 授業で学んだことを、日頃の学習及び社会活動に活かす。 3) ニュース等を毎日視聴し、社会で起きていることに関心を持つことが不可欠である。</p>									

科目名	公衆衛生看護学概論		科目ナンバリング	N-NP NI 2-38. H N	単位数 時 間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	N40000		30時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	中 尾 八重子 (実務経験のある教員)				授業 形態	講義	単独
	アクティブラーニング	有								
授業の 概要	<p>[授業の主旨] 社会集団を対象とした公衆衛生看護の基本理念と目的を理解し、地域における看護職の役割と活動の根拠となる理念・法制度、健康行動やヘルスプロモーションの理論、事例等に基づき、健康課題別・健康危機管理を含む状況別の活動の特徴と内容、相談や教育などの予防的介入を基盤とした公衆衛生看護活動を学ぶ。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの1、2、3、4、5に関連し、カリキュラムポリシー1-1、2-1、3-1、3-2、4-1、5-1に関連している。</p>									
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健師の歴史を概観し、公衆衛生看護活動の特徴を説明できる。 2. 公衆衛生看護学の理念の健康、プライマリー・ヘルスケア、ヘルス・プロモーション、ノーマライゼーション、住民主体の考え方を説明できる。 3. 公衆衛生の基盤である衛生行政の仕組みと公衆衛生看護活動の場・特性を記述できる。 4. 公衆衛生看護活動の対象である個人・家族・集団・コミュニティの捉え方と支援方法を説明できる。 									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容（授業時間外の学修を含む）						備考
第1回	公衆衛生看護とは（1）			公衆衛生と公衆衛生看護、公衆衛生看護の理念と目的						
第2回	公衆衛生看護とは（2）			保健師とは 地域看護と公衆衛生看護						
第3回	公衆衛生看護の歴史と健康課題			公衆衛生看護の始まり、保健師の種類、社会環境と健康課題						
第4回	公衆衛生看護活動の実際（1）			行政（保健所・市町村） 課題：市町村における公衆衛生看護活動						グループワーク
第5回	公衆衛生看護活動の実際（2）			企業 学校						
第6回	公衆衛生看護の基本となる概念(1)			健康の考え方、プライマリー・ヘルスケア						
第7回	公衆衛生看護の基本となる概念(2)			ヘルスプロモーション、公共性、エンパワメント、協働						
第8回	公衆衛生看護活動（1）			保健師とその活動 保健指導						
第9回	公衆衛生看護活動（2）			公衆衛生看護技術						
第10回	公衆衛生看護活動の対象と活動方法(1)			公衆衛生看護活動の対象者：個人・家族・集団・地域						
第11回	公衆衛生看護活動の対象と活動方法(2)			個別支援（家庭訪問・健康相談）						
第12回	公衆衛生看護活動の対象と活動方法(3)			集団への支援（健康教育）						
第13回	公衆衛生看護活動の対象と活動方法(4)			地域へのアプローチ 全体に通じる活動						
第14回	健康危機管理（1）			災害とは 救急医療と災害医療						
第15回	健康危機管理（2）			災害サイクルと災害看護						
評価 方法 及び 評価 基準	<ol style="list-style-type: none"> 1) 2/3以上の出席者につき、課題（レポート）、定期試験等から総合的に評価。 2) 課題：20% 3) 定期試験：80% 									
課題等	課題(レポート)は、返却しない。									
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生学のテキストや配付資料を見直す。 ・居住する地域（自治体）の広報等を読み、行政における医療保健福祉に関心をもつ。 									
教材 教科書 参考書	教科書：標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論第6版 医学書院 2022 ISBN978-4-260-04707-4 参考図書：国民衛生の動向 2022/2023									
留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1) 公衆衛生に関連したこれまでの学習内容と授業内容を関連付ける。 2) 授業で学んだことを、日常生活の観点から捉える。 3) 看護と公衆衛生看護の共通点・相違点を意識する。 									

科目名	公衆衛生看護方法論		科目ナンバリング	N-NP NI 2-42. H N	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	N40005		30時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	中 尾 八重子 (実務経験のある教員)			授業 形態	演習	単独	
	アクティブラーニング	有								
授業の概要	<p>[授業の主旨] 地域で生活する個人や家族、集団、住民組織に対して行う公衆衛生看護活動の展開方法を学習する。また、公衆衛生の理念に基づき、家庭や地域社会など支援の場に応じた看護職の役割・機能を学ぶ。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの2,3に関連し、カリキュラムポリシー2-1,3-1に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健指導の目的および相談的対応・教育的対応の技術を理解し、対人援助技術を述べることができる。 2. 家庭訪問援助の目的、方法を説明できる。 3. 個人・家族の健康課題に対する支援計画立案およびそれに基づいた支援をシュミレーション展開できる。 4. 地域組織活動の目的と支援技術を述べることができる。 									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容（授業時間外の学修を含む）						備考	
第1回	保健指導		保健指導とは 目的 理念							
第2回	保健指導で活用できる理論		行動変容 変化ステージ理論、ナッジ理論							
第3回	保健指導における考え方		ヘルスリテラシー、自己効力感							
第4回	保健指導の主な技術		個別支援と集団支援 個別支援における技術							
第5回	家庭訪問と家族支援		保健師による家庭訪問の目的、特徴、方法							
第6回	家庭訪問の展開		準備・計画立案・実施・評価							
第7回	家庭訪問の実践（1）		演習：支援目的・支援計画立案						グループワーク	
第8回	家庭訪問の実践（2）		演習：本人への支援						グループワーク	
第9回	家庭訪問の実践（3）		演習：家族への支援						グループワーク	
第10回	家庭訪問の実践（4）		課題：受容と傾聴							
第11回	健康相談		健康相談の目的、対象、特徴							
第12回	健康相談とその展開		問題の明確化・カウンセリング技術							
第13回	健康診査		各種健康診査 特定健診・特定保健指導							
第14回	地域組織活動		組織とは 地域組織の種類							
第15回	地域組織活動・グループ支援		地域組織活動の支援 支援の目的							
評価方法及び評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1) 2/3以上の出席者につき、課題、演習への取り組みと成果、定期試験等から総合的に評価。 2) 課題：10% 3) 演習：20% 4) 定期試験：70% 									
課題等	課題（レポート）は、返却しない。									
事前事後学修	授業で紹介する参考図書は、読むことを勧める。									
教材教科書参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書：標準保健師講座2 公衆衛生看護技術第5版 医学書院 2023 ISBN978-4-260-05002-9 ・随時、資料の配布や参考図書を紹介する。 									
留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1) 演習には主体的に取り組み、メンバーと協働する。 2) 公衆衛生および公衆衛生看護学関連の他科目で学んだことと授業内容を関連付けながら理解を深める。 									

科目名	健康教育論（理論・実践）		科目ナンバリング	N-NP NI 2-40. H N	単位数	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	N40006	時間	30時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	中尾 八重子・日下 純子 （実務経験のある教員）				授業 形態	講義	複数
	アクティブラーニング	有								
授業の 概要	<p>〔授業の主旨〕 健康教育の理念や歴史、行動変容の理論に基づいた健康教育に必要な技術について学び、地域で暮らす人々の集団を対象とした健康教育の実践を体験する。その実践を通し、集団に対する支援の基本的な技術とともに、「健康教育」の展開方法（企画・指導案・媒体作成等）を学習する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 5に関連し、カリキュラムポリシー1-1, 2-1, 3-1, 5-1に関連している。</p>									
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域集団を対象に展開する健康教育の考え方を説明できる。 2. 健康な人々を対象とした健康教育の展開方法と技術を説明できる。 3. 健康教育の目標を達成できるような教育媒体を作成できる。集団を対象とした健康教育の方法を展開できる。 4. 小集団を対象とした健康教育を実施できる 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容（授業時間外の学修を含む）						備 考	
第1回	健康教育の理念・目的・方法		公衆衛生看護活動における健康教育 健康教育の理念、変遷						中尾	
第2回	健康教育と行動変容		行動変容とは							
第3回	健康教育の技術		学習と教育、教育技術							
第4回	健康教育の展開		健康教育の準備、実施、評価							
第5回	健康教育の展開過程（1）		企画書とは							
第6回	健康教育の展開過程（1-1）		演習：企画書の作成						中尾 グループワーク	
第7回	健康教育の展開過程（1-2）		演習：企画書の修正						中尾・日下 グループワーク	
第8回	健康教育の展開過程（2）		指導案とは						中尾	
第9回	健康教育の展開過程（2-1）		演習：指導案の作成						中尾 グループワーク	
第10回	健康教育の展開過程（2-2）		演習：指導案の修正						中尾・日下 グループワーク	
第11回	健康教育の展開過程（3）		媒体とは 演習：媒体作成						中尾 グループワーク	
第12回	健康教育の展開過程（4）		演習：シナリオ作成						中尾・日下 グループワーク	
第13回	健康教育の実施（1）		発表（自身の発表）						中尾・日下 プレゼンテーション	
第14回	健康教育の実施（2）		発表（他グループの発表）						中尾・日下 プレゼンテーション	
第15回	健康教育の評価		実践の振り返り（他者評価・自己評価）							
評価 方法 及び 評価 基準	<ol style="list-style-type: none"> 1) 2/3以上の出席者につき、演習とその成果、課題、定期試験等から総合的に評価。 2) 演習：40% 3) 定期試験：60% 									
課題等	課題（レポート）は、返却しない。									
事前事後学修	健康教育の実施（発表）ができるよう主体的に学習する。									
教材 教科書 参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書：標準保健師講座2 公衆衛生看護技術 第5版 医学書院 2023 ISBN978-4-260-05002-9 ・適時、資料の配布や参考図書を紹介する。 									
留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1) グループでの演習に主体的に参加できるよう授業内容を理解できるまで自己学習する。 2) メンバーシップを発揮し演習に取り組む。 									

科目名	コミュニティ活動展開論 (地域診断)		科目ナンバリング	N-NP NI 2-41.H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	N40007		15時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	日下 純子 (実務経験のある教員)				授業 形態	演習	単独
	アクティブラーニング	有								
授業の概要	<p>[授業の主旨] 地域で暮らす人々の健康と生活を支援するための看護の展開方法と技術を習得する。個人・家族・集団に対する支援活動を展開するための基本的な技術である「地域診断」について、理念・理論、及び方法と技術を学習する。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの2、3、4、5、6に関連し、カリキュラムポリシーの3-1, 5-1に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. 地域診断の概念を理解できる。 2. 地域を対象とした多様な情報を収集することができる。 3. 地域集団を対象に展開するコミュニティ・アセスメントの方法を理解できる。 4. 地域診断を通して地域の健康課題を明らかにすることができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容（授業時間外の学修を含む）						備考	
第1回	地域診断の概念		(DVD) 公衆衛生看護活動における地域診断 (37分) ・地域診断の定義、意義と目的、展開の基本							
第2回	地域アセスメントに活用できるモデル		コミュニティ・アズ・パートナーモデル、地域アセスメント項目							
第3回	地域アセスメントの過程		情報の収集方法とアセスメント、健康課題の特定、優先順位の判断							
第4回	地域診断の方法		エスノグラフィー、地区視診							
第5回	地域診断の実際（1）		地域診断の計画立案／演習						グループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーション、ディスカッション	
第6回	地域診断の実際（2）		計画に基づいた展開／演習						グループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーション、ディスカッション	
第7回	地域診断の実際（3）		計画に基づいた展開、情報の整理／演習						グループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーション、ディスカッション	
第8回	地域診断の実際（4）		情報の分析、発表						グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション	
評価方法及び評価基準	<p>1) 2/3以上の出席者につき、出席状況、リフレクションペーパー、演習、定期試験等を組み合わせて総合的に評価する。 2) リフレクションペーパー：全ての授業終了後に提出することで、5点を加算する。 3) 演習への取り組みと発表（30%）、課題レポート（15%） 3) 定期試験：50%</p>									
課題等	Teamsにより適宜指示します。 感想シートなどは、返却しない。									
事前事後学修	授業で紹介する参考図書は、読むことを勧める。									
教材教科書参考書	<p>・教科書：公衆衛生看護学概論：医学書院 2022 ISBN978-4-260-04707-4 ・随時、資料の配布や参考図書を紹介する。 ・国民衛生（福祉）の動向 2022/2023</p>									
留意点	<p>1) 授業で紹介された文献などは、自己学習が重要である。 2) 授業で学んだことを、日頃の学習及び社会活動に活かすことが大切である。 3) ニュース等を毎日視聴し、社会で起きていることに興味を持つことが不可欠である。 4) コロナ関連のニュースは、必ず視聴し、暮らしの場でどのようなことが起きているのかを把握する。</p>									

科目名	成人看護学概論		科目ナンバリング	N-NP NP 2-08. H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	N30014		15時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	土屋 陽子 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
	アクティブラーニング	有								
授業の 概要	<p>〔授業の主旨〕 ライフサイクルにおける成人期の位置づけと成人各期の特性（身体的・精神的、社会的）を全人的・総合的に学ぶ。また、成人期の健康特性及び加齢の進行に基づく生活習慣病の予防、疾病からの回復、重症化予防など健康問題を理解する。その上で、看護理論をふまえた成人への援助・支援の方法を理解し、成人看護の基本について学ぶ。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 5およびカリキュラムポリシーの1-1, 2-1, 3-1, 5-1に関連している。</p>									
	到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人の生活と健康について説明できる。 2. 成人への看護アプローチの基本を説明できる。 3. 成人の健康レベルに対応した看護を説明できる。 4. 成人の健康生活を促すための援助方法を説明できる。 5. 変化する医療・生活環境に対応した看護を説明できる。 								
授 業 計 画										
回	主 題	授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)							備 考	
第1回	成人と生活	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人（大人）とは 2. ライフサイクルからみた成人期の特徴と変化 3. 大人の生活と社会との相互作用 							講義	
第2回	成人への看護アプローチの基本	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者と看護師の人間関係 2. チームアプローチと看護師の役割 3. 実践における倫理的判断、意思決定支援 							講義	
第3回	ヘルスプロモーションを促進する成人看護	個人、地域社会、職場におけるヘルスプロモーション							講義	
第4回	健康を脅かす要因と看護	健康バランス、生活行動がもたらす健康問題とその予防							講義 グループワーク	
第5回	健康生活の急激な破綻から回復を促す看護	急激な健康破綻をきたす状態、急激な健康破綻をきたした人への看護							講義	
第6回	健康生活の慢性的な揺らぎの再調整を促す看護	慢性病患者の理解、支援の基本（知識と技術、自己効力、エンパワメント）							講義	
第7回	終末期にある人を支える看護	終末期医療の現状、終末期にある人への看護							講義	
第8回	新たな治療法、先端医療と看護	新たな治療法・医療処置の開発・普及、新たな治療法・医療処置を受ける患者・家族への看護							講義	
評価 方法 及び 評価 基準	2/3以上の出席を以って評価の対象とする。 筆記試験(80%) 課題レポート(20%)									
課題等	採点後の課題レポートは返却しない。									
事前事 後課題	各授業内容に関連する教科書の該当項目を読んでくること。 準備学習時間の目安：1日あたり30分程度									
教材 教科書 参考書	教科書：小松浩子他著 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学① 医学書院 (ISBN978-4-260-0373-8) 随時、プリント配布、参考文献を紹介する。									
留意点	各種メディアで報道される健康関連問題、最新の医療について感心を持ち、看護の役割について考えて下さい。									

科目名	成人看護学 I		科目ナンバリング	N-NP NP 2-09. H N	単位数	1 単位	対象 学年	2 年	開講 学期	前期
	看護実践科目	必修	科目コード	N30015	時間	30 時間				
区分	看護実践科目 アクティブラーニング	必修 有	担当者名	井澤 美樹子 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>慢性の病いをもつクライアントは、病気とうまくつきあっていくことが求められる。生活の主体者であるクライアントのセルフマネジメント支援を基盤として、成人期にある慢性的な健康問題を抱える人と家族が、病状を管理し日常生活を構築するための援助方法を学ぶ。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシー2-2, 3-1, 3-2, 4-2, 5-1に関連している。</p>									
到達 目標	<p>①セルフマネジメントが必要な状況にある慢性疾患の病態・症状・治療法を理解し、看護に結びつけて説明できる。</p> <p>②慢性病とともに生きる成人の身体・心・社会関係に与える影響を理解し、療養法を生活に取り入れ実践していくための看護援助を理解できる。</p> <p>③理論・モデルを活用して慢性病のある人とその家族を包括的な視点から理解し、エビデンスに基づいた看護を展開できる。</p> <p>④慢性病患者の援助に必要な看護技術について、患者一看護師役割を体験する演習を通して習得する。</p> <p>⑤アクティブラーニングをベースに、グループワークを通して主体的・多角的な視点を養う。</p>									
回	主 題		授業内容					備考・課題等		
第1回	慢性病のある人とその家族の理解		慢性病と慢性疾患 慢性病のある人とその家族の特徴					「生活習慣を変えよう!チャレンジ」レポート①		
第2回	慢性病のある人とその家族の援助		慢性病のある人とその家族のセルフマネジメント支援に必要な概念							
第3回	2型糖尿病のある人のセルフマネジメントを支える看護		2型糖尿病のある人の理解					事例1 (2型糖尿病のある人と家族)		
第4回			自己血糖測定・インスリン自己注射・食事療法が必要な人のセルフマネジメントを支える看護							
第5回			2型糖尿病のある人の看護過程を展開する(グループワーク)							
第6回			2型糖尿病のある人の看護過程を展開する(グループワーク)							
第7回	慢性腎臓病のある人 維持血液透析が必要な人のセルフマネジメントを支える看護		慢性腎臓病のある人・維持血液透析が必要な人の理解					事例2 (慢性腎臓病により維持血液透析が必要になった人と家族)		
第8回			維持血液透析が必要な人のセルフマネジメントを支える看護							
第9回			維持血液透析が必要な人の看護過程を展開する(グループワーク)							
第10回	慢性心不全のある人のセルフマネジメントを支える看護		慢性心不全のある人の理解					事例3 (慢性心不全のある人と家族)		
第11回			慢性心不全のある人のセルフマネジメントを支える看護							
第12回			慢性心不全のある人の看護過程を展開する(グループワーク)							
第13回	慢性呼吸不全のある人のセルフマネジメントを支える看護		慢性呼吸不全のある人の理解と看護					事例4 (慢性呼吸不全のある人)		
第14回			慢性呼吸不全のある人のセルフマネジメントを支える看護(グループワーク)							
第15回	セルフマネジメントを支える看護とは		実施の体験を通して、セルフマネジメントを支える看護を深く考える。 学びのレポート 「テーマ：生活者としての慢性病のある人が、自分らしく生きることに沿う看護とは」					テーマに沿った学びのレポート②		
評価 方法 及び 評価 基準	以下の内容から総合的に評価します。 ・前後の小テスト10% ・レポート10% ・定期試験80%									
課題等	事例を分析するために必要な知識は、主体的に学習してください。 第1・2回には、「生活習慣を変えよう!チャレンジ」レポートを持参してください。(内容は3月末に掲示します)									
事前事後学修	現場に近い状況を設定した事例を活用し、看護過程を展開しながら講義が進みます。事前に事例を分析をして講義に臨んで下さい。各単元の前後で小テストを行い、目標到達度を確認します。 準備学習時間の目安：60分以上									
教材 教科書 参考書	<p>〈教科書〉 鈴木久美、旗持知恵子、佐藤直美：成人看護学 慢性期看護 改定第4版 南江堂ISBN978-4-524-23436-3</p> <p>〈参考書〉 日本糖尿病学会編著：糖尿病食事療法のための食品交換表第7版 文光堂ISBN 978-4-8306-6046-7</p>									
留意点	「教えてもらう」という受動的な姿勢では目標到達はできません。主体的・能動的な姿勢を求めます。									

科目名	成人看護学Ⅱ		科目ナンバリング	N-NP NP 2-10. H N	単位数	1 単位	対象 学年	2 年	開講 学期	前期
	看護実践科目	必修	科目コード	N30016	時 間	30時間				
区分	看護実践科目	有	担当者名	土屋 陽子(実務経験のある教員) 井澤 美樹子(実務経験のある教員)			授業 形態	講義	複数	
授業の 概要等	<p>[授業の主旨]</p> <ul style="list-style-type: none"> 慢性の病いをもつ人とその家族は、その人の病いの始まりの時期から終末期まで、生涯をとおして病いとうまくつきあっていくことが求められる。生活の主体者である人へのセルフマネジメント支援を基盤として、成人期にある慢性的な健康問題を抱える人と家族が、病気を管理し日常生活を構築するための援助方法を学ぶ。 生活機能障害をもち生活の再構築に直面した人とその家族の健康を、生命・生活・人生の観点からとらえ、人間の尊厳と可能性に焦点を合わせて、患者の自律を目指した看護を理解できる。 <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]</p> <p>ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-1, 3-1, 4-1, 5-1に関連する。</p>									
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> ①セルフマネジメントが必要な状況にある病いだけでなく、セルフマネジメントが及ばない状況もある病いをもつ人のさまざまな慢性疾患について病態・症状・治療法を理解し、看護に結びつけて説明できる。 ②慢性の病いととも生きる成人の身体・心・社会関係に与える影響を理解し、療養法を生活に取り入れ実践していくための看護援助を理解できる。 ③理論・モデルを活用して慢性の病いをもつ人とその家族を包括的な視点から理解し、エビデンスに基づいた看護を展開できる。 ④慢性の病いをもつ人への援助に必要な看護について、看護過程の展開を通して習得する。 ⑤リハビリテーションの概念、回復期リハビリテーション看護の専門性を理解できる。 									
回	主 題		授業内容					備考・課題等		
第1回	慢性の病い（生活習慣病とは限らず）をもつ人とその家族の理解		慢性病と慢性疾患 慢性病のある人とその家族の特徴					(土屋)		
第2回	慢性の病い（生活習慣病とは限らず）をもつ人とその家族の援助		生活習慣病に限らない慢性の病いをもつ人とその家族の支援に必要な援助					(土屋)		
第3回	消化器系の障害のある人の看護①		肝硬変のある人の理解（病態・治療・アセスメント）					消化器系の障害のある人の看護過程の展開をグループワークで行う。(土屋)		
第4回	消化器系の障害のある人の看護②		肝硬変のある人の看護（全体像・計画・実施）							
第5回	消化器系の障害のある人の看護③		炎症性腸疾患（IBD）のある人の理解（病態・治療・アセスメント）							
第6回	消化器系の障害のある人の看護④		炎症性腸疾患（IBD）のある人の看護（全体像・計画・実施）							
第7回	免疫系の障害がある人の看護①		自己免疫疾患（全身性エリテマトーデス：SLE）のある人の理解と看護					(土屋)		
第8回	免疫系の障害がある人の看護②		自己免疫疾患（関節リウマチ：RA）のある人の理解と看護					(土屋)		
第9回	脳・神経系の障害のある人の看護①		多発性硬化症（MS）のある人の理解と看護（病態・治療・看護）					(土屋)		
第10回	脳・神経系の障害のある人の看護②		筋萎縮性側索硬化症（ALS）のある人とその家族の理解と看護（病態・アセスメント・看護）					(土屋)		
第11回	筋ジストロフィー症をもつ人の看護		筋ジストロフィー症をもつ人の理解と看護（病態・アセスメント・看護）					(土屋)		
第12回	回復期リハビリテーション看護①		リハビリテーション、リハビリテーション看護の定義 生活機能障害のある人の体験世界					脳梗塞事例の看護過程の展開 (井澤)		
第13回	回復期リハビリテーション看護②		リハビリテーション看護の専門性を理解するための概念と理論							
第14回	化学療法を受ける人への看護①		化学療法の基礎知識、化学療法を受ける人の特徴					(土屋)		
第15回	化学療法を受ける人への看護②		化学療法を受ける人への援助					(土屋)		
評価 方法 及び 評価 基準	以下の内容から総合的に評価します。 小テスト・課題：20%、定期試験：70%									
課題等	第3回目以降の講義に関連する「患者の体験記（コラム：患者を生きる）等」を事前に配布するので、講義の前にあらかじめ読んで、病いをもって生きる人の生活について想像できるよう事前学習をして講義にのぞんでください。									
事前事後 学修	準備学習時間の目安：30分以上									
教材 教科書 参考書	〈教科書〉鈴木久美、旗持知恵子、佐藤直美：成人看護学 慢性期看護 改定第3版 南江堂（ISBN978-4-524-24198-9） 酒井郁子、金城利雄：リハビリテーション看護 障害のある人の可能性とともに歩む 改訂第3版 南江堂（ISBN978-4-524-24629-8） 〈参考書〉安酸史子、鈴木純恵、吉田澄恵：成人看護学(3) セルフマネジメント 第3版 ナーシング・グラフィカ									
留意点	成人看護学は範囲が広いので受動的な学習姿勢では目標到達はできません。主体的・能動的な姿勢を求めます。									

科目名	成人看護学Ⅲ		科目ナンバリング	N-NP NP 2-11. H N	単位数	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	N30017	時間	30時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	村岡 祐介、藤田 あけみ、山崎 千鶴 (実務経験のある教員)				授業 形態	講義	複数
	アクティブラーニング	有								
授業の 概要等	<p>[授業の主旨]</p> <p>周手術期およびクリティカルな時期にある成人期の人々と家族のニーズを理解し、患者およびその家族のQOLを高めるための看護援助と看護師の役割について学ぶ。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]</p> <p>ディプロマポリシーの2、3、4、5、およびカリキュラムポリシーの2-1.2、3-1.2、4-2、5-1.2に関連する。</p>									
到達 目標	<p>1. 手術を受ける患者の身体的・心理的特徴をふまえ、術前・術中・術後に必要な看護を理解できる。</p> <p>2. 手術を受ける患者の情報を総合的に判断し、術後合併症の早期発見・予防・回復に向けた看護援助を説明できる。</p> <p>3. 急性病態や治療の特徴をふまえ、根拠に基づいた看護援助を理解できる。</p> <p>4. 手術および急性疾患の治療後における患者の機能変化を理解し、生活の再構築に向けた看護援助を考えることができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	急性期・周術期看護とは			急性期・周術期における患者の特徴と看護師の役割				藤田 10/4(金)4限		
第2回	手術前の看護①			術前患者の心理 術前オリエンテーション 術前準備				藤田 10/11(金)4限		
第3回	手術前の看護②			術前日～当日の援助 術前のアセスメント				藤田 10/18(金)4限		
第4回	手術中の看護			手術室看護師の役割と機能 術中合併症予防の援助				山崎 10/25(金)4限		
第5回	手術後の看護①			術後の観察とアセスメント 術後合併症予防の援助①				山崎 11/1(金)4限		
第6回	手術後の看護②			術後合併症予防の援助② 早期離床の援助 退院指導				山崎 11/8(金)4限		
第7回	急性期治療を受ける患者の看護			集中治療を受ける患者の特徴、各種治療に伴う援助				村岡 11/15(金)4限		
第8回	胃切除を受ける患者の看護①			術前～術後の観察とアセスメント 術後合併症予防の看護①				村岡 11/22(金)4限		
第9回	胃切除を受ける患者の看護②			術後合併症予防の看護② 退院指導				村岡 11/29(金)4限		
第10回	肺葉切除を受ける患者の看護①			術前～術後の観察とアセスメント 術後合併症予防の看護				村岡 12/6(金)4限		
第11回	肺葉切除を受ける患者の看護②			事例患者のアセスメントと看護計画の立案【課題②】				村岡 12/13(金)4限		
第12回	心筋梗塞患者の看護①			心筋梗塞の症状と治療 緊急入院～治療中の看護				村岡 12/20(金)4限		
第13回	心筋梗塞患者の看護②			治療後～ICUでの看護 心臓リハビリテーション				村岡 1/16(木)4限		
第14回	くも膜下出血患者の看護①			くも膜下出血の症状と治療 緊急入院～治療中の看護				村岡 1/17(金)4限		
第15回	くも膜下出血患者の看護②			治療後～ICUでの看護 後遺障害と心理・社会的問題				村岡 1/24(金)4限		
評価 方法 及び 評価 基準	2/3以上の出席者を評価対象とする。 筆記試験(70%) 課題(30%)									
課題等	適宜課題を提示する。									
事前事 後学修	事前に教科書の該当部分を読んでから授業に参加すること。 事前・事後学修時間の目安：1日あたり30分程度。									
教材 教科書 参考書	〈教科書〉 ・林 直子、佐藤まゆみ編集：成人看護学 急性期看護Ⅰ概論・周手術期看護 改訂第4版 南江堂 ISBN 978-4-524-24163-7 〈参考書〉 ・野島真奈美、林 直子、佐藤まゆみ、鈴木久美編集：成人看護技術 改訂第2版 南江堂 ISBN 978-4-524-25418-7									
留意点	関連の基礎科目「人体の構造Ⅰ・Ⅱ」「人体の機能Ⅰ・Ⅱ」「疾病論Ⅰ～Ⅲ」ほか、と併せて理解を深めること。									

科目名	成人看護学Ⅳ		科目ナンバリング	N-NP NP 2-11. H N	単位数	1単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	N30044	時間	30時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	村岡 祐介、井澤 美樹子 (実務経験のある教員)				授業 形態	講義	複数
	アクティブラーニング	有								
授業の概要等	<p>[授業の主旨]</p> <p>手術による侵襲および患者の心理状態をふまえ、術後合併症予防および術後の身体機能の変化に応じたセルフケア能力を獲得するための援助について学ぶ。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]</p> <p>ディプロマポリシーの2、3、4、5、およびカリキュラムポリシーの2-1.2、3-1.2、4-2、5-1.2に関連する。</p>									
到達目標	<p>1. 患者の病態・術式・身体状況から、術後合併症の早期発見・予防・回復に向けた看護援助を考えることができる。</p> <p>2. 周術期患者の情報を総合的に判断し、エビデンスに基づいた看護を説明できる。</p> <p>3. 事例患者の看護過程展開を通し、患者の回復支援に必要な援助を計画できる。</p> <p>4. 患者と看護師役として経験する実技演習を通して、周術期における看護師の役割と責任について考えることができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題	授 業 内 容						備 考		
第1回	術後合併症予防の援助 1	手術を受けた患者の情報収集とアセスメント 主要な術後合併症の予防と援助						村岡		
第2回	ストーマ造設術を受ける患者の看護	ストーマ造設術を受ける患者の理解						村岡		
第3回		ストーマ造設術を受ける患者の理解						村岡		
第4回		看護過程展開（術前） 看護計画立案						グループワーク 村岡・井澤		
第5回		看護過程展開（術後） 術後1日目/ストーマケアの援助計画作成						グループワーク 村岡・井澤		
第6回		ストーマケアの援助実施 1 援助計画の修正						実技演習 村岡・井澤		
第7回		ストーマケアの援助実施 2 実施記録の記載						実技演習 村岡・井澤		
第8回		看護過程展開（術後）術後7日目/評価						グループワーク 村岡・井澤		
第9回		人工股関節置換術を受ける患者の看護	人工股関節置換術を受ける患者の理解						村岡	
第10回	看護過程展開（術前） 看護計画立案						グループワーク 村岡・井澤			
第11回	看護過程展開（術後） 術後1日目/離床の援助計画作成						グループワーク 村岡・井澤			
第12回	離床の援助実施 1 援助計画の修正						実技演習 村岡・井澤			
第13回	離床の援助実施 2 実施記録の記載						実技演習 村岡・井澤			
第14回	看護過程展開（術後）術後7日目/評価						グループワーク 村岡・井澤			
第15回	まとめ	授業の総括						村岡		
評価方法 及び 評価 基準	2/3以上の出席者を評価対象とする。 筆記試験(40%) 課題(40%) 実技演習・グループワークの参加度(20%)									
課題等	第2回～第8回(課題1)、第9回～第14回(課題2)で提示する記録物(患者情報・統合アセスメント・看護計画・実施記録)									
事前事後 学修	効果的なグループワークをにするため個人の事前学習を要する。 事前・事後学修時間の目安:1日あたり1時間程度。									
教材 教科書 参考書	〈教科書〉 ・林 直子、佐藤まゆみ編集:成人看護学 急性期看護Ⅰ概論・周手術期看護 改訂第4版 南江堂 ISBN 978-4-524-24163-7 〈参考書〉 ・佐藤まゆみ、林 直子編集:成人看護学 急性期看護Ⅱ救急看護・クリティカルケア 改訂第4版 南江堂 ISBN 978-4-524-24164-4 ・野島真奈美、林 直子、佐藤まゆみ、鈴木久美編集:成人看護学 成人看護技術 改訂第2版 南江堂 ISBN 978-4-524-25418-7									
留意点	エビデンスに基づいた援助に結び付けるため既習科目と関連させて理解を深めること。									

科目名	リハビリテーション論		科目ナンバリング	N-NP NP 2-13. S N	単位数	1単位	対象学年	2年	開講学期	後期
			科目コード	N30009	時間	15時間				
区分	看護実践科目 アクティブラーニング	選択 有	担当者名	井澤 美樹子 (実務経験のある教員)			授業形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 生活機能障害をもち生活の再構築に直面した人の健康を、生命・生活・人生の観点からとらえ、人間の尊厳と可能性に焦点を合わせて、患者の自律を目指した看護への理解を深め、活用へと結びつける。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-2, 3-1, 3-2, 4-2, 5-1に関連する。</p>									
到達目標	<p>1. リハビリテーションの概念、回復期リハビリテーションにおける看護の専門性についてICFの視点から深く考え、リハビリテーションマインドを養う。 2. 生活機能障害がある人への看護の実際を理解し、実施できる。 3. 回復期リハビリテーションにおける多職種協働の実際を知り、必要性を理解できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	リハビリテーション看護の専門性を考える		<ul style="list-style-type: none"> 生活機能障害のある人の体験世界を振り返り、リハビリテーション看護の定義や考え方について共有を通して、理解を深めることができる。 リハビリテーション看護の専門性を理解するための概念 (ICF) を確認できる。 ICFを活用した (基盤とし 						講義 資料 グループワーク	
第2回	ICFを活用したリハビリテーション看護		<ul style="list-style-type: none"> ICFを活用した (基盤とした) リハビリテーション (看護) に関連した記事や文献を持ち寄る。 グループワークを通して、お互いが調べた記事や文献から、ICFを活用した (基盤とした) リハビリテーション (看護) を知る。 						グループワーク	
第3回	回復期リハビリテーション看護に従事する看護師のコンピテンシー		<ul style="list-style-type: none"> 文献を読み、各コンピテンシーについて、状況を想像する、調べることを通して、看護の意味を考えることができる。 						グループワーク	
第4回	回復期リハビリテーション倫理的ディレンマ		<ul style="list-style-type: none"> 倫理的ディレンマについて知り、リハビリテーション看護の方向性について考える。 							
第5回	リハビリテーション看護の実際		<ul style="list-style-type: none"> 脳卒中に伴う生活機能障害のある人のリハビリテーション看護の実際 						講義 (ゲストスピーカー) ユニフォーム・ ナースシューズ着用	
第6回			<ul style="list-style-type: none"> 多職種連携の実際 運動機能障害、嚥下障害、転倒リスク状態のある人への看護技術能力が 向上する。 							
第7回										
第8回	まとめ		<ul style="list-style-type: none"> 「私のリハビリテーションマインド」について共有する。 レポート課題「私のリハビリテーションマインド」 						レポート提出 期限1月末	
評価方法及び評価基準	2/3以上の出席者を評価対象とする。 レポート (50%) グループワークの参加度 (30%) 演習の参加度と学び (20%)									
課題等	グループワークを効果的に行うための課題を提示します。									
事前事後学修	ほとんどがグループワークとなります。グループワークを活発に行ってください。									
教材教科書参考書	(教科書) 酒井郁子・金城利雄：リハビリテーション看護 障害のある人の可能性とともに歩む 改訂第3版 南江堂 2021 ISBN□978-4-524-24629-8									
留意点	感じ、考えることを止めないことを約束してください。									

科目名	緩和ケア論		科目ナンバリング	N-NP NP 2-14. H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	N30017		15時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	土屋 陽子 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
	アクティブラーニング	有								
授業の概要	<p>〔授業の主旨〕 緩和ケアの概念、緩和ケアに活用される概念について学ぶ。また、緩和ケアにおける意思決定の支援、日常生活の支援、家族への支援について理解する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシー-1, 2, 3, 4, 5およびカリキュラムポリシーの1-1, 2-1, 3-1, 4-1, 5-1に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 緩和ケアの概念とその提供の場を説明できる。 2. 緩和ケアにおける倫理的問題を理解できる。 3. 緩和ケアに活用される概念を理解できる。 4. 緩和ケアにおける意思決定支援を理解できる。 5. 家族を支援するための視点と看護を説明できる。 									
授 業 計 画										
回	主 題	授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)						備 考		
第1回	緩和ケアとは	緩和ケアの変遷と定義、緩和ケアにおけるチームアプローチ						講義		
第2回	緩和ケアにおける基盤となる概念	緩和ケアにおける意思決定の支援と倫理的問題、喪失・悲嘆のケア、スピリチュアルケア						講義		
第3回	緩和ケアの実践①	痛み・呼吸困難・悪心嘔吐・腹部膨満感のマネジメント						講義		
第4回	緩和ケアの実践②	便秘・倦怠感・浮腫・睡眠障害・不安・うつ・せん妄のマネジメント						講義・演習 (ディスカッション含む)		
第5回	看取りのケア	死が近づいた人とその家族へのケア、看取りの現状						講義		
第6回	がんの事例で学ぶ緩和ケアの実際	痛みを抱えて生活する患者への継続看護の実際						講義・演習 (ディスカッション含む)		
第7回	非がん疾患患者・家族への緩和ケア	がん以外の疾病をもつ患者の意思決定支援、緩和ケアの現状、家族への支援						講義		
第8回	緩和ケアの今後の展望	日本における緩和ケアの展望と課題、専門家育成の課題						講義		
評価方法及び評価基準	2/3以上の出席を以って評価の対象とする。 筆記試験(80%) 課題レポート(20%)									
課題等	採点後の課題レポートは返却しない。									
事前事後課題	各授業内容に関連する教科書の該当項目を読んでくること。 準備学習時間の目安：1日あたり30分程度									
教材教科書参考書	教科書：宮下光令編(ISBN978-4-8404-7540-2) ナーシング・グラフィカ成人看護学⑥緩和ケア第3版 (株)メディカ出版 2022 随時、プリント配布、参考文献を紹介する。									
留意点	各種メディアで報道されるがん医療、緩和ケア、人の死について感心を持ち、看護の役割について考えて下さい。									

科目名	老年看護学概論		科目ナンバリング	N-NP NP 2-15. H N	単位数	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	N30018	時間	15時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	佐藤 厚子 (実務経験のある教員)				授業 形態	講義	単独
	アクティブラーニング	有								
授業の 概要等	[授業の主旨] 高齢者を成熟の段階にありそれぞれ生きてきた人生や価値観が異なる人ととらえ、その多様性について身体的・心理的・社会的側面から理解する。また、高齢者を取り巻く保健医療福祉の動向や諸制度を理解し社会的な課題にも着目し学びを深め、QOLや生きがい、人権と倫理的課題についても学ぶ。これらの学習から高齢者の健康と生活を支援するための看護のあり方を考える。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの1、2、3、4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1、2-1、3-1、3-2、4-1に関連している。									
	到達 目標	1. 高齢者の身体的・心理的・社会的特徴が理解できる。 2. 高齢社会の特徴と高齢者の生活状況が理解できる。 3. 高齢者を取り巻く環境が理解できる。 4. 高齢者に関連した保健・医療・福祉制度の現状と課題について理解できる。 5. 高齢者を尊重したかわり、倫理的課題について理解できる。 6. その人らしい生活を継続するための方法と重要性が理解できる。								
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	老いを生きる			健康とはなにか、老いを生きる人の特徴、老年期の発達課題				レポート		
第2回	超高齢社会の概要			超高齢社会の統計的輪郭						
第3回	超高齢社会と社会保障			超高齢社会における保健医療福祉の動向、介護保険制度						
第4回	超高齢社会における権利擁護と倫理的課題			高齢者虐待、身体拘束、権利擁護のための制度						
第5回	老年看護のなりたち			老年看護の基盤、老年看護の役割、老年看護における理論・概念						
第6回	高齢者のヘルスアセスメント			ヘルスアセスメントの基本				グループワーク		
第7回				身体に加齢と変化へのアセスメント						
第8回	その人らしい生活を継続するために			サクセスフルエイジングと平衡老化、老年看護に携わる者の責務				ディスカッション レポート		
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
評価 方法 及び 評価 基準	定期試験（80%）、演習レポート（15%）、参加状況（5%）により評価する。 グループワーク評価はルーブリックを採用します。									
課題等	レポートはコメントして返却、グループ発表に対して講評を行う。									
事前 事後 学習	主題は教科書の章や節に該当します。講義前に教科書での事前学習をすることが望ましい。 事後学習は、授業時間内に配布したレジュメと教科書を使用し復習する。									
教材 教科書 参考書	【教科書】系統看護学講座専門分野Ⅱ老年看護学 第9版 医学書院 ISBN 978-4-260-03186-8 【その他】必要なプリントは講義時に配布する									
留意点	老いを生きるとは、どのようなことなのでしょう。老いても自分らしく生きるために何が大切なのでしょう。日ごろから新聞やニュースなど見て考えましょう。状況によりteamsによる双方向的な形態を採用します。									

科目名	老年看護方法論		科目ナンバリング	N-NP NP 2-16. H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	N30019		30時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	佐藤 厚子、小野 綾 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	複数	
	アクティブラーニング	有								
授業の概要等	【授業の主旨】 老年看護学概論での学びを踏まえ、加齢が高齢者の健康生活に及ぼす影響と援助方法を学習する。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの2, 3, 4に関連する。 カリキュラムポリシーの2-1, 3-1, 3-2, 4-1に関連する。									
到達目標	1. 加齢によって生じる高齢者の心身への影響、日常生活への影響を理解できる。 2. 高齢者特有の疾患と症状を理解し、アセスメントのポイントが理解できる。 3. 高齢者の健康を維持・増進するための看護の役割について考えることができる。 4. 高齢者とその家族を支えるための地域の役割と看護のつながりについて考えることができる。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容					備 考		
第1回	高齢者の生活機能アセスメント		・基本動作とADL評価・CGA					PBL 終了後課題あり 佐藤		
第2回			・高齢者のフィジカルアセスメント					PBL 終了後課題あり 小野		
第3回			・老年症候群と廃用症候群 ・フレイル					PBL 終了後課題あり 佐藤		
第4回			・骨粗鬆症と転倒・転倒予防対策					PBL 終了後課題あり 佐藤		
第5回			・高齢者の運動機能とリハビリテーション					小野		
第6回	症状のある高齢者のアセスメント		・脱水・浮腫					小野		
第7回			・疼痛・掻痒感					小野		
第8回			・褥瘡（講義と学内演習）					PBL 提出課題あり 小野		
第9回										
第10回			・高齢者のうつ、自殺 ・高齢者のせん妄					佐藤		
第11回										
第12回			・認知症					PBL 終了後課題あり 佐藤		
第13回										
第14回	高齢者のリスクマネジメント		・医療安全と救急救命					小野		
第15回	地域における高齢者		・介護予防 ・地域包括ケア、家族支援					佐藤		
評価方法及び評価基準	2/3以上の出席を以って評価の対象とします。 試験80%、レポート課題20%									
課題等	提出課題は必ず提出してください。提出課題は採点后に指導とともに返却します。									
事前事後学修	予習が行われることを前提として授業を行います。必ず予習を行い授業に臨んでください。									
教材教科書参考書	【教科書】 1. 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」北川公子(著者代表)、医学書院 (ISBN 9784260031868) 2. 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論」鳥羽研二(著者代表)、医学書院 (ISBN 9784260031721) 3. 「根拠と事故防止からみた老年看護技術」亀井智子(編集)、医学書院 (ISBN 9784260043267) 4. 人体の構造、人体の機能で使用した教科書									
留意点	状況によりteamsによる双方向的な形態を採用します。全出席を望みます。									

科目名	老年看護援助論Ⅰ		科目ナンバリング	N-NP 2-30. H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	N30061		15時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	佐藤 厚子、小野 綾 (実務経験のある教員)			授業 形態	演習	複数	
	アクティブラーニング	有								
授業の 概要等	[授業の主旨]									
	<p>高齢者特有の疾患と看護について学習する。 高齢者の健康と自立を支える為に必要な基本的援助技術と看護について学習する。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの2、3、4に関連し、カリキュラムポリシー2-1、3-2、4-1に関連している。</p>									
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年看護学概論と老年看護方法論で学んだ高齢者の特徴を基盤とし、高齢者特有の疾患と看護について理解できる。 2. 高齢者の生活機能を理解し、基本的な援助技術を修得できる。 3. 高齢者の尊厳に配慮したコミュニケーション方法を理解できる。 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	高齢者特有の疾患と看護			・ 感染症と発熱				佐藤		
第2回				・ 呼吸器疾患				佐藤		
第3回				・ パーキンソン病とパーキンソン症候群				小野		
第4回	コミュニケーション技術演習			・ ユマニチュード【ユニフォーム着用】(演習)				演習提出物あり 小野		
第5回										
第6回				・ パーソンセンタードケア (教室内演習)				演習提出物あり 小野		
第7回										
第8回				・ デイサービス・老人ホームの役割と看護				外部講師		
評価 方法 及び 評価 基準	2/3以上の出席を以って評価の対象とします。 演習提出物、試験、出席状況を総合して評価します。									
課題等	提出物は必ず提出してください。									
事前 事後 学修	振り返りを必ず行ってください。									
教材 教科書 参考書	<p>【教科書】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」北川公子(著者代表)、医学書院 (ISBN 9784260031868) 2. 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論」鳥羽研二(著者代表)、医学書院 (ISBN 9784260031721) 3. 「根拠と事故防止からみた老年看護技術」亀井智子(編集)、医学書院 (ISBN 9784260024983) 4. 人体の構造、人体の機能で使用した教科書 									
留意点	全出席を望みます。									

科目名	老年看護援助論Ⅱ		科目ナンバリング	N-NP 2-31.H N	単位数 時 間	1単位 30時間	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	N30062						
区分	看護実践科目	必修	担当者名	佐藤 厚子、小野 綾 (実務経験のある教員)				授業 形態	演習	複数
	アクティブラーニング	有								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 高齢者の生活と健康を支えるための援助を計画、実施、評価する一連の看護過程展開を演習する。 高齢者の健康と自立を支える為に必要な基本的援助技術と看護について学習する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3に関連し、カリキュラムポリシー3-2に関連している。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者看護における看護過程展開の特徴がわかる。 ・高齢者の個人特性を考慮した看護過程展開ができる。 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	高齢者の生活機能アセスメント演習			・栄養と食事、口腔ケア				演習後提出物あり 佐藤		
第2回				【ユニフォーム着用】(演習) ・食事介助				演習後提出物あり 佐藤・小野		
第3回										
第4回				・高齢者の排泄機能の特徴と排泄ケア				演習提出物あり 小野		
第5回										
第6回								【ユニフォーム着用】(演習) ・高齢者疑似体験・入浴介助 ・転倒予防対策		
第7回										
第8回	看護過程の展開 (事例展開)			・高齢者看護における看護過程展開の特徴(講義)				演習後提出物あり 佐藤		
第9回				・事例検討① 情報整理 (教室内演習)				演習後提出物あり 佐藤・小野		
第10回				・事例検討① 関連図作成、看護の焦点立案 (教室内演習)				演習後提出物あり 佐藤・小野		
第11回				・事例検討① アセスメント要約、計画立案 (教室内演習)				演習後提出物あり 佐藤・小野		
第12回				・事例検討② 情報整理 (教室内演習)				演習後提出物あり 佐藤・小野		
第13回				・事例検討② 関連図作成、看護の焦点立案 (教室内演習)				演習後提出物あり 佐藤・小野		
第14回				・事例検討② アセスメント要約、計画立案 (教室内演習)				演習後提出物あり 佐藤・小野		
第15回				看護過程展開の振り返り				演習後提出物あり 佐藤		
評価方法及び評価基準	2/3以上の出席を以って評価の対象とします。 演習提出物、試験、出席状況を総合して評価します。									
課題等	提出物は必ず提出してください。									
事前事後学修	演習の振り返りは必ず行いましょう。基礎看護で履修した看護過程展開を見直しましょう。 老年看護における看護過程展開の特徴を整理しましょう。									
教材教科書参考書	<p>【教科書】</p> <p>1. 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」北川公子(著者代表)、医学書院 (ISBN 9784260031868)</p> <p>2. 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論」鳥羽研二(著者代表)、医学書院 (ISBN 9784260031721)</p>									
留意点	全出席を望みます。									

科目名	小児看護学概論		科目ナンバリング	N-NP NP 2-18. H N	単位数	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	N30021	時間	15時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	齋藤 美紀子・齋藤 史恵 (実務経験のある教員)				授業 形態	講義	複数
	アクティブラーニング	有								
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 小児の成長・発達の特徴、小児と家族の関係、望ましい成育環境、小児をとりまく社会環境等を学び、小児看護の基本となる概念と支援について理解する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシー2, 3, 4およびカリキュラムポリシー2-1, 3-1, 4-1に関連する									
到達 目標	1. 小児看護の目的、対象、役割、活動分野の概要が説明できる。 2. 小児の権利を尊重した看護について説明できる。 3. 小児と家族を取り巻く社会環境とその影響について説明できる。 4. 小児と家族を支援するための法律や施策について説明できる。 5. 小児各期の標準的な成長・発達と過程について述べるができる。 6. 小児各期における生活の特徴と健康課題について述べるができる。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	小児看護の対象と小児看護の目的 小児と家族の諸統計			①小児看護の対象、目的、役割について学ぶ。 ②人口動態統計データから小児の出生率、死亡率、死亡原因等を学ぶ 【復習課題】ブリーフレポート				バズセッション 5/18(土)1限 齋藤美紀子		
第2回	小児看護における倫理と子どもの権利			小児看護の歴史と変遷、子どもの人権と小児看護における倫理を学ぶ				5/18(土)2限 齋藤美紀子		
第3回	小児と家族と取り巻く社会の現状			①小児と家族の相互関係および家族の現状と課題について学ぶ ②我が国の児童福祉施策を理解する				バズセッション 5/25(土)1限 齋藤美紀子		
第4回	わが国の母子保健施策			①小児と家族の健康を守る法律と施策を理解する ②子どもの健康を支える社会制度を学ぶ				5/25(土)2限 齋藤美紀子		
第5回	小児看護における理論と成長発達			①小児看護で活用される理論を学ぶ ②小児の成長発達の一一般の原則と特徴、および評価の方法を学ぶ 【復習課題】理論に基づく発達段階表の作成				授業内ワーク 6/1(土)1限 齋藤美紀子		
第6回	小児の発達段階(1) 新生児・乳児			新生児・乳児の身体的特徴と日常生活および健康課題を学ぶ				6/1(土)2限 齋藤史恵		
第7回	小児の発達段階(2) 幼児			幼児期の身体的・心理的特徴と日常生活および健康課題を学ぶ				6/8(土)1限 齋藤史恵		
第8回	小児の発達段階(3) 学童・思春期			学童期・思春期の身体的・心理的特徴と日常生活および健康課題を学ぶ				6/8(土)2限 齋藤史恵		
評価 方法 及び 評価 基準	筆記試験、複数の課題レポート、授業参加態度から総合的に評価し、60点以上を合格とする。 評価割合は筆記試験90%、課題レポートおよび授業参加態度を10%とする。 筆記試験は到達目標1~6を網羅した問題とする。課題レポートは様式および論理性と内容の適切さを評価する。授業参加態度は指示された提出物の提出状況から評価する。									
課題等	第1回の課題はTeamsにて提出してください。									
事前事後学修	事前学修：授業主題に相当する部分の教科書を読み、内容を理解する。事後学修：各自講義内容のノート整理を行う。事前事後学修には合わせて1時間以上の時間が必要。									
教材 教科書 参考書	教科書：「系統看護学講座 専門分野 小児看護学①小児看護学概論・小児臨床看護総論」(医学書院) ISBN 978-4-260-03860-7 参考書：授業中に適宜紹介 その他、資料配付やVTR等の教材を使用する。									
留意点	内容が多いので予習・復習をしっかりと行って授業に参加して下さい。 毎回出席確認シートを提出してもらいます。 予習・復習に関する課題レポートや小テストについてはその都度提示します。									

科目名	小児看護方法論		科目ナンバリング	N-NP NP 2-19.H N	単位数	1単位	対象	2年	開講	後期
	看護実践科目	必修	科目コード	N30022	時間	30時間	学年			
区分	アクティブラーニング	無	担当者名	齊藤史恵、木田優子 (実務経験のある教員)			授業	形態	講義	複数
授業の概要	<p>〔授業の主旨〕 子どもの疾病や障害の状況に適した看護が実践できるための知識と方法を学ぶ。子どもの入院環境、健康障害や入院が子どもや家族に及ぼす影響、症状を示す子どものアセスメントと援助方法などを理解する。小児の発達については、小児の遊びを考えながら学びを深めていく。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシー2, 3, 4 カリキュラムポリシー2-1, 3-1, 3-2, 4-1に関連している</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの成長・発達をふまえながら特徴を理解できる 2. 疾病が子どもと家族に及ぼす影響を理解できる 3. 子どもの疾患に多く見られる症状および看護について説明できる 4. 疾病の経過に伴う子どもと家族の看護について子どもの発達をとらえながら説明できる 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)						備 考	
第1回 (齊藤)	オリエンテーション 病気・障害を持つ子どもと家族の看護		病気・障害に対する子どもの反応、病気・治療に伴うストレス 子どもの病気・障害に対する家族の反応 (以降、毎授業において、小児の発達)						レポート (健康問題と看護)	
第2回 (齊藤)	急性期・周手術期の子どもの看護		急性疾患とは、急性期の子どもと家族の特徴と看護、周手術期の子どもと家族の看護						レポート(小児のフィジカルアセスメント①、②)	
第3回 (齊藤)	終末期の子どもと家族の看護		終末期とは、子どもへのケア、家族へのケア						DVD視聴	
第4回 (木田)	慢性期にある子どもと家族の看護		慢性疾患とは、慢性期の子どもと家族の課題、慢性期の子どもと家族の支援						DVD視聴	
第5回 (齊藤)	子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護(1)		検査・処置について、子どもにとっての検査・処置体験とは 外来看護について、子どもの入院環境							
第6回 (齊藤)	子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護(2)		在宅療養中の子どもと家族の看護、医療的ケアについて 災害時の子どもと家族の看護						DVD視聴	
第7回 (齊藤)	臨床看護方法①/ 情報収集とアセスメント		コミュニケーション、ヘルスアセスメント、栄養・排泄・活動							
第8回 (齊藤)	臨床看護方法②/ バイタルサイン測定		バイタルサイン測定、身体計測							
第9回 (木田)	症状を示す子どもの看護(1)		不機嫌・啼泣、痛み							
第10回 (齊藤)	症状を示す子どもの看護(2)		呼吸困難、チアノーゼ、ショック							
第11回 (齊藤)	症状を示す子どもの看護(3)		発熱、嘔吐・下痢・便秘、脱水・浮腫							
第12回 (木田)	症状を示す子どもの看護(4)		貧血、出血、黄疸						レポート (小児の発達に応じた遊び)	
第13回 (齊藤)	症状を示す子どもの看護(5) 臨床看護方法③/ 与薬の援助		けいれん、発疹、子どもの与薬：経口、坐薬、点滴						ビデオ視聴	
第14回 (齊藤)	障害のある子どもと家族の看護 子どもの虐待		障害のとらえ方、障害のある子どもと家族の特徴、支援 子どもの虐待について						課題：発達段階おもちゃ作成	
第15回 (齊藤)	低出生体重児の看護 学習内容の確認とまとめ		低出生体重児と家族の看護 小児の発達段階別遊び発表会							
評価方法及び評価基準	毎回の授業後のミニテスト・筆記試験・課題・レポート(ルーブリック等の評価)・受講態度を総合的に評価し、60点以上を合格とする。評価割合は、筆記試験90%、レポート他10%とする。提出物が提出されない場合は、評価が受けられない場合がある。									
課題等	実践に備え、利用できるよう課題を作成していくため、内容が不十分な場合は再提出となる。									
事前事後学習	事前にテキストにおいて授業内容の部分を読み、頭に入れておくこと。毎回の授業後に出されたミニテストをもとに毎回学習を繰り返し、知識を定着させておくこと。授業と授業の間に3時間程度									
教材教科書参考書	教科書：「系統看護学講座専門Ⅱ 小児看護学概論・小児看護学総論 小児看護学①」医学書院 ISBN 978-4-260-03860-7 「系統看護学講座専門Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学②」医学書院 ISBN 978-4-260-03866-9 参考書：「写真でわかる小児看護技術アドバンス」インターメディカ ISBN 978-4-89996-409-4									
留意点	小児看護学概論、人体の構造と機能、疾病論の学習内容と深く関連しています。フィジカルアセスメントや症状看護については基礎看護学で学修したことを踏まえて講義を行いますので、既習得の内容を確認しながら、次の学習につながるよう学習を進めてください。講義の妨げとなるような行為(おしゃべり、携帯、授業中の出入り)、授業中の居眠りは、出席とみなさない場合もあるので注意してください。									

科目名	小児看護援助論 I		科目ナンバリング	N-NP 2-32. H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期	
			科目コード	N30063		30時間					
区分	看護実践科目	必修	担当者名	齊藤史恵、木田優子 (実務経験のある教員)			授業 形態	演習	複数		
	アクティブラーニング	有									
授業の概要	<p>[授業の主旨] TBL(チーム基盤型学習)において反転授業を取り入れ、グループダイナミクスを活用した学生主体の演習を展開する授業である。小児看護学に関連する知識と技術を統合し、ダイナミックに変化する小児の発達段階を追いながら、看護における「こどもとの向き合い方」の具体的な援助方法を学んでいく。本授業はI・IIを通して、臨地実習の直前に行われる授業として、主体的に学ぶ姿勢と、実践のための臨床的な判断能力・思考力を段階的に身につける重要な授業となっている。 (ディプロマポリシー1, 2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシー1-1, 2-1, 3-1, 3-2, 4-1, 5-1に関連している)</p>										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 活発なグループワークを通して、学生個人が主体的に学習活動を展開できる 2. 疾患別の看護援助方法をその根拠となる理論をもとに理解できる 3. 小児の発達段階をふまえ個別性に応じた看護計画を立案できる 4. 小児看護に必要な実践的な看護技術を習得できる 										
授 業 計 画											
回	主 題		授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)								
第1回	授業ガイダンス 糖尿病の疾患を持つ子どもの看護		授業の説明、確認テスト(IRAT, GRATの実施)、 事例に基づく応用演習課題					事前課題 反転学習、TBL			
第2回											
第3回	第1学習ユニット <乳幼児> 呼吸器疾患の看護 (発熱、呼吸困難の看護)		①確認テスト(IRAT, GRATの実施)、ミニ講義とフィードバック、事例に基づく応用演習課題の提示とグループワーク(1)、ディスカッション					反転学習、TBL			
第4回								アセスメントレポート			
第5回			グループワーク プレゼンテーション ディスカッション				②応用演習課題の提示とグループワーク(2)ポスターによるプレゼンテーション(看護問題、看護計画)とディスカッション				
第6回											
第7回							③技術トレーニング、振り返りと応用テスト、ピア評価				
第8回			次回学習課題								
第9回			第2学習ユニット <乳児> 先天性心疾患の看護 (循環状態の観察、身体計測、 経管栄養、調乳)		①確認テスト(IRAT, GRATの実施)、ミニ講義とフィードバック、事例に基づく応用演習課題の提示とグループワーク(1)、ディスカッション					反転学習、TBL	
第10回	アセスメントレポート										
第11回	グループワーク プレゼンテーション ディスカッション				②応用演習課題の提示とグループワーク(2)ポスターによるプレゼンテーション(看護問題、看護計画、関連図)とディスカッション						
第12回											
第13回					③技術トレーニング、振り返りと応用テスト、ピア評価						
第14回	次回学習課題										
第15回	技術トレーニング(点滴、シーネ固定)		学習のまとめ								
<p>小グループを形成してグループワークにて演習を実施する。事前学習を行い、準備確認テストを受けたのちに事例に基づいた演習課題へと進む。演習はディスカッション、プレゼンテーション、演習の計画立案と実施、事後検討会、確認テスト等が含まれる。</p>											
評価方法及び評価基準	<p>出席が3分の2以上であることが評価の条件である。ほぼ毎回テストがあるため、欠席には注意する。 各ユニットにおいて、事前確認テスト40点、事後テスト20点、グループ・個人ファイル(演習課題・アセスメントレポート)30点、受講態度10点(個人による点数とチームによる点数、ピア評価も含まれる)</p>										
課題等	<p>ほぼ毎授業で課題がある。提出物(ファイル等)の期限は厳守すること。</p>										
事前事後学修	<p>既存の学習(1・2年生)の確認は必須である。授業期間中のアセスメント計画立案や看護技術にいたるまで、幅広く学習する必要がある。 準備学習時間の目安：1日当たり1時間、週当たり3時間ほど</p>										
教材教科書参考書	<p>現在までの授業で使用したテキスト、プリントなどの資料を活用すること。 教科書：系統看護学講座専門22「小児看護学(1)」, 専門23「小児看護学(2)」, 医学書院 ISBN 978-4-260-03860-7, 978-4-260-03866-9 サブ教科書：「発達段階からみた小児看護過程」 医学書院 ISBN 978-4-260-00624-8 「写真でわかる小児看護技術アドバンス」 インターメディカ ISBN 978-4-89996-409-4</p>										
留意点	<p>小児看護学概論、小児看護方法論、疾病論(小児科学)等の知識を統合して実施する授業なので、幅広い復習が必要である。主体的な学習活動であり、学習を進めるのは基本的に個人である。チーム学習の特色上、自主的に課題をやらない場合、ワークに参加することは難しい。グループワーク、個人課題にかかわらず、準備不足の時には授業への参加を認めないことがある。この単位を修得しないと臨地実習は履修できない。</p>										

科目名	小児看護援助論Ⅱ		科目ナンバリング	N-NP 2-33. H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	N30064		30時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	齊藤史恵、木田優子 (実務経験のある教員)			授業 形態	演習	複数	
	アクティブラーニング	有								
授業の概要	<p>[授業の主旨] TBL(チーム基盤型学習)において反転授業を取り入れ、グループダイナミクスを活用した学生主体の演習を展開する授業である。小児看護学に関連する知識と技術を統合し、ダイナミックに変化する小児の発達段階を追いながら、看護における「こどもとの向き合い方」の具体的な援助方法を学んでいく。本授業はⅠ・Ⅱを通して、臨地実習の直前に行われる授業として、主体的に学ぶ姿勢と、実践のための臨床的な判断能力・思考力を段階的に身につける重要な授業となっている。 (ディプロマポリシー1, 2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシー1-1, 2-1, 3-1, 3-2, 4-1, 5-1に関連している)</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 活発なグループワークを通して、学生個人が主体的に学習活動を展開できる 疾患別の看護援助方法をその根拠となる理論をもとに理解できる 小児の発達段階をふまえて個別性に応じた看護計画を立案できる 小児看護に必要な実践的な看護技術を習得できる 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)						
第1回	技術トレーニング			授業の説明、学習の準備						
第2回				①事例に基づく応用演習課題の提示とグループワーク(1)、ディスカッション						
第3回				②応用演習課題の提示とグループワーク(2)ポスターによるプレゼンテーション(看護問題、看護計画)とディスカッション						
第4回	第3学習ユニット 血液・造血器疾患の看護 (検査時のプレパレーション) ＜学童＞			③プレパレーション発表準備、グループワーク						
第5回				④技術トレーニング(プレパレーション発表会)、振り返りと応用テスト、ピア評価						
第6回										
第7回										
第8回										
第9回				①事例に基づく応用演習課題の提示とグループワーク(1)、ディスカッション						
第10回				②応用演習課題の提示とグループワーク(2)ポスターによるプレゼンテーション(看護問題、看護計画)とディスカッション						
第11回				③技術トレーニング、振り返りと応用テスト、学習のまとめ、ピア評価						
第12回	第4学習ユニット 慢性疾患の看護 (医療的ケア児)									
第13回										
第14回										
第15回										
<p>小グループを形成してグループワークにて演習を実施する。事前学習を行い、準備確認テストを受けたのちに事例に基づいた演習課題へと進む。演習はディスカッション、プレゼンテーション、演習の計画立案と実施、事後検討会、確認テスト等が含まれる。</p>										
評価方法及び評価基準	<p>出席が3分の2以上であることが評価の条件である。ほぼ毎回テストがあるため、欠席には注意する。 各ユニットにおいて、事前確認テスト40点、事後テスト20点、グループ・個人ファイル(演習課題・アセスメントレポート)30点、受講態度10点(個人による点数とチームによる点数、ピア評価も含まれる)</p>									
課題等	<p>ほぼ毎授業で課題がある。提出物(ファイル等)の期限は厳守すること。</p>									
事前事後学修	<p>既存の学習(1・2年生)の確認は必須である。授業期間中のアセスメント計画立案や看護技術にいたるまで、幅広く学習する必要がある。 準備学習時間の目安：1日当たり1時間、週当たり3時間ほど</p>									
教材教科書参考書	<p>現在までの授業で使用したテキスト、プリントなどの資料を活用すること。 教科書：系統看護学講座専門22「小児看護学(1)」, 専門23「小児看護学(2)」, 医学書院 ISBN 978-4-260-03860-7, 978-4-260-03860-9 サブ教科書：「発達段階からみた小児看護過程」 医学書院 ISBN 978-4-260-00624-8 「写真でわかる小児看護技術アドバンス」 インターメディカ ISBN 978-4-89996-409-4</p>									
留意点	<p>小児看護学概論、小児看護方法論、疾病論(小児科学)等の知識を統合して実施する授業なので、幅広い復習が必要である。主体的な学習活動であり、学習を進めるのは基本的に個人である。チーム学習の特色上、自主的に課題をやらない場合、ワークに参加することは難しい。グループワーク、個人課題にかかわらず、準備不足の時には授業への参加を認めないことがある。この単位を修得しないと臨地実習は履修できない。</p>									

科目名	母性看護学概論		科目ナンバリング	N-NP NP 2-21. H N	単位数	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	N30024	時間	15時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	大瀬 富士子 (実務経験のある教員)				授業 形態	講義	単独
	アクティブラーニング	有								
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>子どもを産み育て、親になる過程、家族を形成する時期、生命の継承にかかわる女性の健康について学び、リプロダクティブヘルス/ライツの理解を深め、母性看護にかかわる倫理的課題を学びます。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの3に関連し、カリキュラムポリシー3-1, 3-2に関連している。</p>									
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母性看護学の基盤となる概念を説明できる 2. 女性や母子・家族を取り巻く社会の変遷と現状について説明できる 3. 親になるプロセスや家族形成、家族の発達と課題について説明できる 4. 女性のライフサイクルにおける身体的変化と健康問題について説明できる 5. 性周期、妊娠について説明できる 6. 母性看護の場で生じる倫理的課題について考察できる 7. 母性看護の場で生じる問題について考察できる 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	母性の概念①			「母性とは」何か				グループワーク		
第2回	母性の概念②			母性の概念 p 2～22				プレゼンテーション・講義		
第3回	母子を取り巻く社会の変遷と現状			母性看護の変遷、統計、法律、施策 p58～97				講義		
第4回	家族とは、子育てとは			母子関係、父子関係、家族の発達段階、家族システム、母性の世代間伝達 p127～154				講義		
第5回	女性の身体のライフサイクルに応じた変化			身体発育、女性の性周期の変化、妊娠のメカニズム、胎児の性分化p100～127 子宮力				講義		
第6回	ライフステージ各期の健康問題と看護			思春期・成熟期の健康問題と看護、月経異常、更年期・老年期の健康問題と看護、性差医療、p195～250				講義		
第7回	産み育てることの生命倫理			母性看護にかかわる生命倫理総論 (各論はリプロダクティブヘルス/ライツで行う)				講義とペアワーク		
第8回	産み育てることの問題			児童虐待の実態、児童虐待防止 p308～316				講義		
評価 方法 及び 評価 基準	2/3以上の出席により評価の対象となります。 グループワークの相互作用10%、 レポート課題（課題に示したテーマ）50% 授業シートのコメント40%									
課題等	レポート：母性看護学概論で学んだこと、提言したいこと。表紙をつけてA4、1枚程度。									
事前事後学修	社会で話題になっていることを調べて授業に臨んで下さい。									
教材 教科書 参考書	教科書： 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学1 医学書院 ISBN978-4-260-04225-3 参考図書： 病気がみえるvol.10, 産科, メデックメディア, 2013 ISBN978-4-89632-713-7 標準産科婦人科学, 医学書院, 2014 ISBN978-4-260-04265-9 * 随時、資料配付します。									
留意点	後期のリプロダクティブヘルス/ライツに続きます。									

科目名	母性看護方法論		科目ナンバリング	N-NP NP 2-22. H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	N30025		30時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	大瀬 富士子 (実務経験のある教員)				授業 形態	講義	単独
	アクティブラーニング	有								
授業の概要	<p>[授業の主旨] マタニティサイクル(妊娠期・分娩期・産褥期)にある女性、胎児期・新生児期にある対象者の健康問題を総合的に捉え、正常経過の看護、異常時の看護についての基礎的知識を学ぶ。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの3に関連し、カリキュラムポリシーの3-1,3-2に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. マタニティサイクル(妊娠期・分娩期・産褥期)にある女性や胎児・新生児の生理・正常経過が理解できる。 2. マタニティサイクル(妊娠期・分娩期・産褥期)にある女性や胎児・新生児の異常が理解できる。 3. マタニティサイクル(妊娠期・分娩期・産褥期)にある女性や胎児・新生児の健康診査がわかる。 4. マタニティサイクル(妊娠期・分娩期・産褥期)にある女性や胎児・新生児の健康教育がわかる。 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)						備 考	
第1回	妊娠期の看護①		妊娠の成立						講義	
第2回	妊娠期の看護②		事例紹介、マタニティ診断、妊娠の確定、分娩予定日・時期						講義	
第3回	妊娠期の看護③		妊婦健康診査						講義	
第4回	妊娠期の看護④		妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、切迫流早産など 妊娠期の異常、						講義	
第5回	妊娠期の看護⑤		妊娠期の心理・社会的特性、妊娠期の生活、保健相談						講義 ペアワーク	
第6回	分娩期の看護①		分娩の4要素、分娩の機序、分娩経過						講義	
第7回	分娩期の看護②		分娩の4要素、分娩の機序、分娩経過						講義	
第8回	分娩期の看護③		分娩期の異常、正常から逸脱した産婦の看護						講義	
第9回	産褥期の看護①		産褥期の身体的変化、産褥のアセスメント						講義	
第10回	産褥期の看護②		産褥期の身体的変化、産褥のアセスメント						講義	
第11回	産褥期の看護③		産褥期の異常、正常から逸脱した産婦の看護						講義	
第12回	新生児の看護①		新生児の生理、アセスメント						講義	
第13回	新生児の看護②		新生児の生理、アセスメント						講義	
第14回	新生児の看護③		新生児期の異常、正常から逸脱した新生児の看護						講義	
第15回	まとめ		母性方法論のまとめ、重要な項目確認						講義	
評価方法及び評価基準	2/3以上の出席により評価の対象となります。 筆記試験70% 授業シートのコメント30%									
課題等	前回の講義の重要な項目の確認小テストを行います。									
事前事後学修	講義終了後は講義資料を復習してください。									
教材教科書参考書	教科書：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院 ISBN978-4-260-04223-9 写真でわかる母性看護技術アドバンス インターメディカ ISBN978-4-89996-410-0 参考書：病気がみえる 産科 MEDIC MEDIA ISBN978-4-89632-713-7									
留意点	母性看護の核となる妊娠・分娩・産褥・新生児期の根拠となる理論を学び、母性看護援助論に続きます。									

科目名	母性看護援助論		科目ナンバリング	N-NP NP 2-23. H N	単位数 時間	1単位 30時間	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	N30026						
区分	看護実践科目	必修	担当者名	大瀬 富士子、菅原 光子 (実務経験のある教員)				授業 形態	講義	複数
	アクティブラーニング	有								
授業の 概要	<p>〔授業の主旨〕 母性看護方法論で学んだマタニティサイクル（妊娠期・分娩期・産褥期）にある女性、胎児・新生児期にある対象者の健康問題を総合的に捉え、正常経過の看護、異常時の看護についての基本的知識をもとに、母性看護の援助の実践を学ぶ。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3に関連し、カリキュラムポリシーの3-1, 3-2に関連している。</p>									
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. マタニティサイクル（妊娠期・分娩期・産褥期）にある女性、新生児の健康診査、健康教育・援助を行うことができる。 2. 母性看護学に必要な看護技術ができる。 3. 事例の看護過程展開ができる。 4. 保健指導を理解し、実践の準備ができる。 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容（授業時間外の学修を含む）					備 考		
第1回	妊娠期の看護		妊婦健康診査、保健指導					大瀬4/11(木)5限		
第2回	分娩期の看護		分娩第1期～第4期の看護、胎盤観察、異常時の看護					大瀬4/18(木)5限		
第3回	新生児期の看護		出生直後の新生児のケア、新生児蘇生法					大瀬5/2(木)5限		
第4回	新生児期の看護		出生当日～生後5日の看護					大瀬5/9(木)5限		
第5回	褥婦の看護		分娩当日～分娩後5日の看護、帝王切開の看護					大瀬5/19(木)5限		
第6回	褥婦の看護		母乳育児支援とは					菅原5/23(木)5限		
第7回	育児支援		育児支援とは					菅原5/30(木)5限		
第8回	産後健診		2週間健診（母乳外来）、1か月健診					大瀬6/6(木)5限		
第9回	看護過程展開		事例による母性看護過程展開					大瀬6/13(木)5限		
第10回	母性看護技術		ABグループ演習 妊婦健康診査、褥婦診察	CDグループ 看護過程展開	EFグループ 保健指導パンフ レット作成	大瀬・菅原6/17(月)1限				
第11回	母性看護技術		ABグループ演習 新生児診察・清潔	CDグループ 看護過程展開	EFグループ 保健指導パンフ レット作成	大瀬・菅原6/17(月)2限				
第12回	母性看護技術		ABグループ 看護過程展開	CDグループ 保健指導 パンフレット作成	EFグループ 妊婦健康診査、褥婦診 察	大瀬・菅原6/21(金)1限				
第13回	母性看護技術		ABグループ 看護過程展開	CDグループ 保健指導 パンフレット作成	EFグループ 新生児診察・清潔	大瀬・菅原6/21(金)2限				
第14回	母性看護技術		ABグループ 保健指導 パンフレット作成	CDグループ演習 妊婦健康診査、褥婦診察	EFグループ 看護過程展開	大瀬・菅原6/28(金)1限				
第15回	母性看護技術		ABグループ 保健指導 パンフレット作成	CDグループ演習 新生児診察・清潔	EFグループ 看護過程展開	大瀬・菅原6/28(金)2限				
評価 方法 及び 評価 基準	<p>2/3以上の出席により評価の対象となります。 筆記試験50% 提出物 20% 演習15% 授業シートのコメント15%</p>									
課題等	看護過程展開									
事前事 後学修	<p>母性看護方法論を復習して下さい。 授業で学んだ技術は母性看護学実習初日に技術チェックします。練習しておきましょう。</p>									
教材 教科書 参考書	<p>教科書：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院（母性看護方法論で購入済） ISBN978-4-260-04223-9 写真でわかる母性看護技術アドバンス インターメディカ ISBN978-4-89996-410-0（方法論で購入済の方は不要） 参考書：病気がみえる 産科 MEDIC MEDIA ISBN978-4-89632-713-7</p>									
留意点	母性看護方法論では母性看護の核となる妊娠・分娩・産褥・胎児期・新生児期の根拠となる理論を学びましたが、母性看護援助論では母性看護、母性看護技術を学びます。									

科目名	次世代育成ケア論		科目ナンバリング	N-NP NP 2-24. S N	単位数 時間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	N30041		15時間				
区分	看護実践科目	選択	担当者名	大瀬 富士子 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
	アクティブラーニング	有								
授業の概要	<p>〔授業の主旨〕 子どもが幸福と感じ、未来が明るくなるために私達ができることは何か。 子どもの成長・育児を理解した上で、育児の歴史的考察や、現代の育児や育児支援の諸問題をクリティカルな思考で考える。 主旨の核となるものは、看護観を深めることである。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシー-3に関連し、カリキュラムポリシー-3-1, 3-2に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 育児の歴史的考察から諸問題を考えることができる。 2. 子どもの成長、育児を理解できる。 3. 現状をクリティカルな思考で考えることができる。 4. 育児支援のあり方を考え表現できる。 5. 看護観を深めることができる。 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)					備 考		
第1回	日本の子どもの幸福		逝きし世の面影から見る日本の子どもの幸福					講義		
第2回	初めての育児		赤ちゃんのお父さんお母さんに伝えること					グループワーク		
第3回	初めての育児		赤ちゃんのお父さんお母さんに伝えること					プレゼンテーション		
第4回	歓喜と豊穡の経験		おむつなし育児を考える					講義・ペアワーク		
第5回	地域で産み育てる		地域で産み育てる社会問題を考える					講義・グループワーク プレゼンテーション		
第6回	母乳育児		母乳育児の歴史的考察					講義		
第7回	産み育てることの変遷		産み育てることの変遷から見る育児支援					講義		
第8回	育児支援のあり方		育児支援のあり方はどうあるべきか					講義・グループワーク プレゼンテーション		
評価方法及び評価基準	2/3以上の出席により評価の対象となります。 グループワーク・ペアワークの相互作用、プレゼンテーション20%、 授業シートのコメント80%									
課題等	授業シートを充実させる									
事前事後学修	社会で話題になっていることに関心をもち主体的な意見をもって参加して下さい。									
教材教科書参考書	随時、資料配付、参考文献の紹介を行う。参考書を購入する必要はありません。									
留意点	子育てに関することに興味関心をもって臨んでください。									

科目名	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ		科目ナンバリング	N-NP NP 2-25.H N	単位数 時間	1単位 15時間	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	N30042						
区分	看護実践科目 アクティブラーニング	必修 有	担当者名	大瀬 富士子 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要	<p>〔授業の主旨〕 リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念と意義を基盤に、対象を理解し、セクシュアリティとジェンダー、女性の健康問題・社会的問題を歴史的・国際的視点から理解する。リプロダクティブ・ヘルス/ライツを考察し、実現できるための行動を考えることができる。</p> <p>〔ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーの関連事項について〕 ディプロマポリシー3に関連し、カリキュラムポリシー3-1、3-2に関連している。</p>									
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念と意義を理解し問題を考えることができる。 2. セクシュアリティに関する概念、人間の性の特質、ジェンダー、性的マイノリティについて理解することができる。 3. 女性の健康問題・社会的問題を歴史的・国際的視点から理解することができる。 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)					備 考		
第1回	プレコンセプションヘルス		リプロダクティブヘルスのための妊娠前からの健康					講義 ペアワーク		
第2回	胎児の障がい		出生前診断、倫理的課題、意思決定を支える看護pp14～30 (教科書2)					講義		
第3回	不妊への看護		生殖補助医療、倫理的課題、意思決定を支える看護pp30～60 (教科書2)					講義 ペアワーク		
第4回	性感染症と望まない妊娠を防ぐ リプロヘルスサポーターの役割		家族計画の考え方、受胎調節の原理と方法、性感染症の罹患状況と予防法、HPVワクチンを考える pp250～256 (教科書1)、人工妊娠中絶の動向と影響pp256～282					講義 ペアワーク		
第5回	国際社会の リプロダクティブヘルス/ライツ		SDGs、難民、児童婚など世界の女性の命と健康と権利					講義		
第6回	性暴力を受けた女性へのケア		暴力被害を受けた女性の実態とケア、国際社会の現状pp291～300 (教科書1)					講義		
第7回	セヒューマン・クシュアリティ		概念、発達、性の分化、性の多様性、LGBTQ、ジェンダー、性行動、包括的性教育 pp20～23.117～123 (教科書1)					講義と ペアワーク		
第8回	子宮頸がんワクチン		子宮頸がんワクチン接種を考える					講義		
評価 方法 及び 評価 基準	2/3以上の出席により評価の対象となります。 ペアワークの相互作用10%、 レポート課題 (課題に示したテーマ) 50% 授業シートのコメント40%									
課題等	レポート：授業で学んだこと、リプロダクティブヘルス/ライツで提言したいこと 表紙をつけてA4 1枚程度。									
事前事後 学修	社会で話題になっていることを調べて授業に臨んで下さい。									
教材 教科書 参考書	教科書： 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学1 医学書院 (前期使用) ISBN978-4-260-04225-3 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学2 医学書院 (前期使用) ISBN978-4-260-04223-9 * 随時、資料配付、参考文献の紹介を行う。									
留意点	母性看護学概論に続く科目です。 新聞、書籍等に関心を持ち主体的な意見をもって参加すること。									

科目名	精神看護学概論		科目ナンバリング	N-NP NP 2-26. H N	単位数	1単位	対象学年	2年	開講学期	前期
			科目コード	N30027	時間	15時間				
区分	看護実践科目 アクティブラーニング	必修 有	担当者名	菅原大輔 (実務経験のある教員)			授業形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>心の問題は健康生活にとって極めて重要である。心の健康が個人の健康生活を維持するだけでなく社会に大きな影響を及ぼすこともある。心のしくみや不安と防衛機制、ストレス、幼児期から老年期に至るまでの心の発達と健康問題、そして、現代社会における精神保健活動について学ぶ。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2、3に関連し、カリキュラムポリシーの2-2、3-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. 心の健康についての考え方、見方、影響する因子について理解できる。</p> <p>2. 心の発達と健康問題について理解できる。</p> <p>3. 現代社会における精神保健上の主な問題について理解できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	精神障害と精神保健			わが国の精神保健上の問題について						
第2回	地域精神保健			地域ケアへの転換について リカバリーを機軸とした精神医療について						
第3回	精神の発達過程			エリクソンの漸成的発達理論、マズローの欲求5段階説など						
第4回	精神（心）の危機状況と精神保健①			危機理論について						
第5回	精神（心）の危機状況と精神保健②			セルフマネジメント・アンガーマネジメント・コーチングについて						
第6回	精神（心）の構造とはたらき			意識と無意識 防衛機制について						
第7回	現代社会と精神（心）の健康			社会構造の変化と社会病理					グループワーク	
第8回	現代社会における精神保健活動			精神保健活動における課題について					グループワーク	
評価方法及び評価基準	講義への参加度やグループワーク（20点）、定期試験（80点）を合計して評価する。									
課題等	講義の内容は下記の教科書や資料を参考に各自で振り返りを行うこと。									
事前事後学修	主題について予習し、講義内容は復習すること。 学習時間の目安：1日当たり30分以上									
教材教科書参考書	岩崎弥生／渡邊博幸：新体系、看護学全書、精神看護学概論・精神保健、メジカルフレンド社 ISBN:978-4-8392-3389-1									
留意点	心の問題に関する記事や報道に関心を持ち、最近の動向を調べましょう。									

科目名	精神看護方法論		科目ナンバリング	N-NP NP 2-27. H N	単位数	1単位	対象学年	2年	開講学期	後期
			科目コード	N30028	時間	30時間				
区分	看護実践科目 アクティブラーニング	必修 有	担当者名	菅原大輔 (実務経験のある教員)			授業形態	講義	単独	
授業の概要等	〔授業の主旨〕 精神に障がいをもつ人々に対する看護の役割について、また、精神障がい者のコミュニケーションの特徴、精神障がい者との関係の作り方、コミュニケーション技術、精神症状のとらえ方について学ぶ。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2、5に関連し、カリキュラムポリシーの2-2、5-1に関連している。									
到達目標	1. 統合失調症および双極性障害の発病と回復の過程をイメージできる。 2. 精神看護学における看護実践の倫理的側面を理解する。 3. 精神看護の援助における対人関係の基本を理解する。 4. 治療チームにおける看護の機能と役割を理解する。 5. クライアントの生活についての様々な困難と課題および解決方法を理解する。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	精神医療の歴史と法の変遷			精神医療をめぐる法の変遷について 精神保健福祉法と患者処遇のガイドラインについて						
第2回	精神症状の理解（1）			知覚の障がい、思考の障害、自我意識の障害について						
第3回	精神症状の理解（2）			感情の障害、知能の障害、記憶の障害について						
第4回	統合失調症の病態の理解			統合失調症の経過（発病前、急性期、回復期、慢性期など）および、それぞれの時期の主な特徴について						
第5回	統合失調症急性期の経過と回復過程（1）			統合失調症の発病と回復過程について 精神構造の理解				グループワーク		
第6回	統合失調症急性期の経過と回復過程（2）			回復過程の各段階における看護と具体策について				グループワーク		
第7回	精神障害の状態像および現象群			精神障害の状態別にみた具体策について				グループワーク		
第8回	双極性障害の発病と回復過程における看護の役割（1）			双極性障害の経過 うつ病エピソードと躁病エピソードについて						
第9回	双極性障害の発病と回復過程における看護の役割（2）			双極性障害の薬物療法、双極性Ⅱ型障害、非定型うつ病について						
第10回	嗜癪の理解とアディクション看護			物質関連障害および嗜癪性障害について						
第11回	認知症の治療と看護			わが国における認知症の現状 認知症の治療と看護について						
第12回	てんかんおよび身体表現性障害			てんかんの病理と看護について 身体表現性障害の病理と看護について				オンデマンド		
第13回	パーソナリティー障害および摂食障害の治療と看護			パーソナリティー障害の概念および看護介入について 摂食障害の概念および看護介入について						
第14回	薬物療法と看護の役割（1）			抗精神病薬の作用機序について 精神科で扱う主な薬物療法について						
第15回	薬物療法と看護の役割（2）			抗精神病薬の主な副作用（麻痺性イレウス、悪性症候群、水中毒など）と看護について						
評価方法及び評価基準	講義への参加度と学習態度、グループワーク（20点）、定期試験（80点）を合計して評価する。									
課題等	講義で分かりにくい箇所は下記の教科書や資料を参考に各自で振り返りを行うこと。									
事前事後学修	疾病論Ⅱおよび精神看護学概論の資料を見直し、復習してから講義に臨むこと。また、講義内容を確認し、予習してから講義に臨んで下さい。学習時間の目安：1日あたり30分以上。									
教材教科書参考書	教科書： 岩崎弥生、渡邊博幸：新体系、看護学全書、精神看護学②、精神障害をもつ人の看護、メジカルフレンド社 ISBN:978-4-8392-3390-7 阿保順子他：統合失調症急性期看護学、すぴか書房 ISBN:978-4-902630-30-5									
留意点	精神看護援助論および精神看護学実習に連動する講義であるため自己学習を怠らないこと。									

科目名	精神看護援助論		科目ナンバリング	N-NP NP 2-28. H N	単位数	1単位	対象学年	3年	開講学期	前期
			科目コード	N30029	時間	30時間				
区分	看護実践科目 アクティブラーニング	必修 有	担当者名	菅原大輔 (実務経験のある教員)			授業形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>ひとりひとりの精神障がい者のおかれた状況や心の問題に深い理解を示し、その人に適した援助をするための方策や自立を支える生活支援の方法をグループワークを通して学ぶ。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2、5に関連し、カリキュラムポリシーの2-2、5-1に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 困難な局面で援助を提供する方法を考えることができる。 2. 各種の病態像をイメージし、病状に多面的な理解があることを学ぶ。 3. 看護過程の展開の実際を理解し実施できる。 4. プロセスレコードから言動を振り返り、対象者の必要な援助を考えることができる。 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	看護過程の展開方法			基本情報のまとめ方・情報の分析方法・問題点の抽出・優先順位・看護計画の立案について						
第2回	プロセスレコード			プロセスレコードの活用目的・考察視点・記載方法など						
第3回	統合失調症における看護過程の展開①			統合失調症における事例の説明					グループワーク	
第4回	統合失調症における看護過程の展開②			基本情報の整理					グループワーク	
第5回	統合失調症における看護過程の展開③			情報の分析					グループワーク	
第6回	統合失調症における看護過程の展開④			問題点の抽出および優先順位の決定					グループワーク	
第7回	統合失調症における看護過程の展開⑤			看護計画の立案					グループワーク	
第8回	統合失調症における看護過程の展開⑥			看護過程の発表および解説					グループワーク ディスカッション	
第9回	双極性障害における看護過程の展開①			双極性障害における事例の説明					グループワーク	
第10回	双極性障害における看護過程の展開②			基本情報の整理					グループワーク	
第11回	双極性障害における看護過程の展開③			情報の分析					グループワーク	
第12回	双極性障害における看護過程の展開④			問題点の抽出および優先順位の決定					グループワーク	
第13回	双極性障害における看護過程の展開⑤			看護計画の立案					グループワーク	
第14回	双極性障害における看護過程の展開⑥			看護過程の発表および解説					グループワーク ディスカッション	
第15回	まとめ			授業の総括					課題提出	
評価方法及び評価基準	課題（看護過程）の提出（50点）、定期試験の成績（50点）を合計して評価する									
課題等	演習時間内に看護過程の展開が終了できないグループは次回までの課題とする。									
事前事後学修	看護過程の展開が円滑にできるよう精神看護方法論を振り返り各自で復習しておくこと。 学習時間の目安：1日あたり30分以上。									
教材教科書参考書	<p>教科書： 岩崎弥生／渡邊博幸：新体系、看護学全書、精神看護学②、精神障害をもつ人の看護、メジカルフレンド社（購入済み） ISBN:978-4-8392-3390-7</p> <p>阿保順子他：統合失調症急性期看護学、すぴか書房 ISBN:978-4-902630-30-5（購入済み） グループワークでは講義で使用した資料や教科書を活用するので準備すること。</p>									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の提出期限を厳守すること。 ・演習では学生同士の積極的な意見交換をすること。 ・精神看護学実習に直結した学習になるので自己学習を怠らないこと。 									

科目名	精神科リハビリテーション論		科目ナンバリング	N-NP NP 2-29. H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	N30030		15時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	菅原大輔 (実務経験のある教員)				授業 形態	講義	単独
	アクティブラーニング	有								
授業の 概要	<p>〔授業の主旨〕 現在の精神医療は長期入院を避け、地域で生活する精神障がい者が、健康で自分らしい生活を送るための支援が重要である。 講義では地域で生活する精神障がい者を中心に援助方法の理解を深めて、ノーマライゼーションのための精神保健活動を学習する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2、3、5に関連し、カリキュラムポリシーの2-2、3-1、5-1に関連している。</p>									
到達 目標	<p>1. 精神科リハビリテーションの意味やあり方について理解できる。 2. 精神障害をもつ人の地域における生活への支援について理解できる。 3. 治療チームにおける看護の機能と役割を理解できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)					備 考	
第1回	精神科リハビリテーションとは			精神科リハビリテーションについて リカバリーの理念とストレングスについて						
第2回	回復段階に応じたりハビリテーション①			段階（急性期・臨界期）に応じたりハビリテーションと看護						
第3回	回復段階に応じたりハビリテーション②			段階（回復期・維持期）に応じたりハビリテーションと看護						
第4回	事例の検討			精神科リハビリテーションの事例をグループで検討する					グループワーク	
第5回	精神保健と社会復帰施設			精神保健 (mental health) について 社会復帰施設の役割						
第6回	災害時の精神看護			災害時地域精神保健医療活動と心のケアについて 災害派遣精神医療チーム (DPAT) の役割						
第7回	精神保健医療福祉			精神保健医療福祉に関する考え方 精神科デイケア・ACTなどアウトリーチの実際						
第8回	精神科領域における関連技法			作業療法・社会技能訓練・心理教育・集団療法・認知行動療法・芸術療法など						
評価 方法 及び 評価 基準	講義への参加度や学習態度・グループワーク（20点）、定期試験（80点）を合計して評価する。									
課題等	講義の内容は下記の教科書や資料を参考に各自で振り返りを行うこと。									
事前事後学修	主題について予習し、講義内容は復習すること。 学習時間の目安：1日あたり30分以上									
教材 教科書 参考書	岩崎弥生／渡邊博幸：新体系、看護学全書、精神看護学②、精神障害をもつ人の看護、メジカルフレンド社 ISBN:978-4-8392-3390-7									
留意点	講義で不明な点があれば質問して下さい。オフィスアワーも活用して下さい。									

科目名	看護管理学		科目ナンバリング	N-NP 2-25. H N	単位数	1単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
	看護実践科目	必修	科目コード	N30010	時間	15時間				
区分	看護実践科目 アクティブラーニング	必修 無	担当者名	小林 朱実 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>看護専門職として必要なマネジメントの基礎的知識と、組織的なマネジメントのあり方、それを支える知識を学ぶ。看護管理の基本的な理論、質評価、人材育成、制度・政策、チーム医療等、実践例を交えて学習する。本コースでは、今後の実習・臨床での実践に向けて、臨床の場を管理的視点で多角的にとらえることができる基礎能力の習得を目指す。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの4、5に関連し、カリキュラムポリシーの4-1、5-1に関連している。</p>									
到達 目標	<p>講義等を通して、以下の目標の達成を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理に必要な要素、プロセスを学ぶ。 2. 看護専門職として、ケアのマネジメントに必要な知識について理解を深める。 3. 看護ケア提供組織のマネジメントに必要な知識について理解を深める。 4. 医療制度、政策について理解を深める。 5. 看護職として、自己のキャリア発達を考えることができる。 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	看護マネジメントの概要		看護管理学とは、マネジメントプロセスとサイクル、マネジメントの変遷、サービスの概念							
第2回	看護ケアのマネジメント		看護職の機能、チーム医療、看護業務とマネジメント、看護職の健康管理							
第3回	看護サービスのマネジメント		組織と組織構造、看護の組織化、看護ケア提供システム、労働環境							
第4回	患者の権利の尊重と看護を取り巻く諸制度		患者の権利、インフォームドコンセント、意思決定支援、看護職の職業倫理、看護職と法・制度、医療制度							
第5回	医療・看護の質		安全管理、危機管理、看護の質評価、目標管理							
第6回	資源管理と情報のマネジメント		施設・設備環境、物的資源管理、臨床における情報管理、情報の伝達・共有・活用							
第7回	リーダーシップとマネジメント		リーダーシップスタイル、集団、エンパワーメント、変化と変革							
第8回	人材育成とプロフェッション		看護の専門職性、組織における人材育成、看護職の教育制度、新人看護職員研修制度							
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度10%、課題提出20%、筆記試験70%で評価する。									
課題等	課題のテーマは講義中に提示する。科目開講期間内に返却する。									
事前事後 学修	講義の理解を深めるために、事前に教科書の該当部分に目を通して参加してください。 事前準備の目安：30分程度 受講後は、テキスト・配布資料を使用し復習してください。									
教材 教科書 参考書	上泉和子, 小山秀夫, 寛淳夫, 鄭佳紅：系統看護学講座統合分野「看護管理」, 医学書院, 2018, ISDN ISBN978-4-260-03182-0									
留意点	学習カードに質問欄を作り、次回講義時に回答します。									

科目名	リスクマネジメント		科目ナンバリング	N-NP NI 2-32. H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	N30011		15時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	高田 まり子 (実務経験のある教員)				授業 形態	講義	単独
	アクティブラーニング	有								
授業の 概要	<p>〔授業の主旨〕 看護の対象を守るために必要とされる安全管理の視点と看護師の役割について実際の事故事例から学ぶ。また、医療従事者として自分を守るために必要な知識と対策・対応の基本について学ぶ。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2, 3, 4, 5およびカリキュラムポリシーの2-1, 3-1, 4-1, 5-1に関連している。</p>									
到達 目標	<p>1. 医療の場におけるリスクマネジメントの視点を理解できる。 2. 医療安全、事故防止に向けた看護師の役割について説明できる。 3. 医療事故事例から、事故要因と事故防止対策を関連付けて理解できる。 4. 医療の場で生じる状況・場面を想定した事例から、起こりうる危険を考えることができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)						備 考	
第1回	リスクマネジメントと看護師の役割		リスクマネジメントの視点と意義、看護師の役割						講義	
第2回	看護師が関わる医療事故の現状		看護師が関与した医療事故例を1件取り上げ(新聞・インターネット・文献)リスクマネジメントの視点から分析する						個人演習	
第3回	診療の補助業務に伴う医療事故①		与薬業務・医療機器の使用とリスクマネジメント						講義	
第4回	診療の補助業務に伴う医療事故②		輸液・浣腸・チューブ管理とリスクマネジメント						講義	
第5回	療養上の世話に伴う医療事故		転倒・誤嚥・入浴援助とリスクマネジメント						講義	
第6回	看護師を脅かすリスク		職業感染、放射線被ばく、抗がん剤暴露、院内暴力、他						講義	
第7回	医療現場のリスクマネジメント①		組織としての医療安全対策						講義	
第8回	医療現場のリスクマネジメント②		医療事故発生時の対応						講義	
評価 方法 及び 評価 基準	2/3以上の出席者を評価の対象とする。 筆記試験(70%) 課題レポート(30%)									
課題等	看護師が関与した医療事故事例を1件取り上げリスクマネジメントのあり方を考察する。									
事前事 後課題	各授業内容に関連する既習の基礎科目(人体構造・機能、薬剤・感染・各種疾病)、および基礎看護技術論・基礎看護技術演習Ⅰ・Ⅱ、等)を見直して参加すること。 事前・事後学修時間の目安:1日あたり30分程度									
教材 教科書 参考書	随時プリント配布、参考文献を紹介する。									
留意点	各種メディアで報道される医療事故について関心を持ち看護師の役割について考えてみること。									

科目名	救急看護		科目ナンバリング	N-NP NI 2-33. S N	単位数 時間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	N30008		15時間				
区分	看護実践科目	選択	担当者名	村岡 祐介 (実務経験のある教員)				授業 形態	講義	単独
	アクティブラーニング	有								
授業の概要	<p>[授業の主旨] 生命危機状態にある患者とその家族への看護を理解するため、救急看護の対象とその特徴、救命処置の基本と原則、および災害急性期における看護活動について学ぶ。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 5およびカリキュラムポリシーの1-1, 2-1, 3-1, 5-1に関連する。</p>									
到達目標	1. 救急医療および救急看護の特殊性を理解できる。 2. 生命の危機的状況にある患者とその家族の特徴をふまえた援助のありかたについて考えることができる。 3. 一次・二次救命処置における看護師の役割を理解できる。 4. 災害急性期の特徴と看護活動を理解できる。									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容（授業時間外の学修を含む）						備考	
第1回	救急看護の場と特徴		救急医療システム、プレホスピタルケア、救急患者の特徴						講義	
第2回	救急・集中治療における看護活動		救急看護師の役割と活動、集中治療室での看護活動						講義	
第3回	救急患者を取り巻く倫理的課題		脳死下臓器提供を行う患者とその家族の看護						グループワーク プレゼンテーション ディスカッション	
第4回	救急患者のアセスメントと対応①		急性循環不全患者の特徴と看護①						講義	
第5回	救急患者のアセスメントと対応②		急性循環不全患者の特徴と看護②						講義	
第6回	救急患者のアセスメントと対応③		急性呼吸不全患者の特徴と看護						講義	
第7回	救命処置と看護師の役割		一次救命処置演習・二次救命処置						演習	
第8回	救命処置と看護師の役割		一次救命処置演習・二次救命処置						演習	
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
評価方法 及び 評価 基準	2/3以上の出席者を評価対象とする。 筆記試験(70%) 課題レポート(30%)									
課題等	第3回「救急患者を取り巻く倫理的課題」で提示する課題レポート。									
事前事後学修	各授業内容に関連する既習の基礎科目（人体の構造・人体の機能、等）を見直して参加すること。 事前・事後学修時間の目安：1日あたり30分程度									
教材 教科書 参考書	随時プリント配布、参考文献を紹介する。									
留意点	救急看護はフィジカルアセスメントの知識と技術を駆使して、患者の生命を守るための支援を行います。人体の構造・人体の機能・ヘルスアセスメントと関連させて学習します。また、幅広い疾患が対象となりますので、疾病論の内容とも併せて理解を深めて下さい。									

科目名	研究方法論		科目ナンバリング	N-NP NI 2-46. H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	N20022		15時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	佐藤 厚子(実務経験のある教員) 大瀬 富士子(実務経験のある教員) 田中 真実 阿部 智美(実務経験のある教員)			授業 形態	講義	オムニバス	
	アクティブラーニング	無								
授業の概要	<p>〔授業の主旨〕 卒業研究および将来の臨床における看護研究に必要とされる基本的な考え方、知識、技術を修得することを目的とする。また、研究のプロセスに対応した、研究テーマの設定から文献検索・収集、研究計画書の作成といった過程の進め方、研究デザインの決定やデータ解析技法の知識と方法をオムニバスで講義する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの4に関連し、カリキュラムポリシーの4-1に関連している。</p>									
到達目標	<p>1) 研究のプロセスを理解できる。 2) 文献検索方法を理解できる。 3) 倫理的配慮について理解できる。 4) 研究デザインの種類について理解できる。 5) 研究計画書の基本を理解し、模擬研究計画書を作成できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容（授業時間外の学修を含む）						備考
第1回	看護研究の意義と研究課程			看護研究とは、疑問から研究課題の焦点化						佐藤
第2回	文献検索・文献検討			テーマに沿って、関連のある文献検索、文献検討						大瀬
第3回	倫理的課題			看護研究における倫理的課題						田中
第4回	事例研究とその進め方			研究方法、データ収集方法の実際						佐藤
第5回	質的研究とその進め方			研究デザイン、研究方法、データ収集方法の実際と分析方法						阿部
第6回	量的研究とその進め方			研究デザイン、概念枠組みの考え方、研究方法、データ収集方法の実際と分析方法						田中
第7回	研究論文の読み方・書き方			研究のクリティーク、論文執筆のための知識と実際の進め方						阿部
第8回	研究計画書・研究発表			研究計画書の作成と発表の仕方						佐藤
評価方法及び評価基準	<p>1) 振り返りシート、課題を組み合わせで総合的に評価する。2/3以上の出席で評価対象とする。 2) 振り返りシート：授業終了後に提出する。1回10点満点。 3) 課題（模擬研究計画書）：20点満点。</p>									
課題等	全講義終了後、模擬研究計画書を作成する。									
事前事後学修	事前学習として、自分の興味や関心をもつテーマについて検索し、論文に目を通しておく。 事後は、ゼミ指導の前に教科書を読み、理解しておく。									
教材教科書参考書	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 黒田裕子：黒田裕子の看護研究 Step by Step 第6版、医学書院、2023 ISBN: 9784260030151 資料は、そのつど配布する。 授業の中で、参考図書を紹介する。 									
留意点	振り返りシートは次年度に開講する卒業研究の基礎資料となる。整理して保存し、研究を行う前に必ず目を通すこと。									

科目名	基礎看護学実習 I		科目ナンバリング	N-NP CT 2-48. H N	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期集中
			科目コード	N31001	時間	45時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	阿部 智美、幸山 靖子、村上 翔太郎 (実務経験のある教員)			授業 形態	実習	複数	
	アクティブラーニング	有								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>看護実践の見学・参加および受け持ち患者の日常生活の援助体験を通して、患者、患者の入院環境、日常生活の援助技術および患者・看護師関係の成立の実際を学び、看護実践に必要な基礎的能力を養うことを目指して、患者を受け持つて行う。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの3-1, 2 4-1, 2 5-1に関連する</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の療養環境を知る。 2. 患者とのコミュニケーション、人間関係の成立について理解を深める。 3. 患者に必要な日常生活の援助を理解できる。 4. 将来、看護専門職者となるための看護観と態度を養う。 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	実習オリエンテーション			実習の概要、目的・目標、方法、実習病院の概要の説明、留意事項の説明、身だしなみの確認、事前学習、技術演習					学内	
第2回	施設オリエンテーション、看護の見学、参加、実施			病院・病棟の概要の説明と見学、受け持ち患者への挨拶、援助の見学・実施、報告、カンファレンス					各実習病院	
第3回	看護の見学、参加、実施			受け持ち患者とのコミュニケーション、援助の見学・体験、報告、カンファレンス					各実習病院	
第4回	看護の見学、参加、実施			受け持ち患者とのコミュニケーション、援助の見学・体験、報告、カンファレンス（まとめ）					各実習病院	
第5回	実習のまとめ			カンファレンス「実習における学びと目標達成度、自己の課題」、実習記録の整理、レポートの作成					学内	
評価方法及び評価基準	実習時間45時間の4/5以上の出席者に対して、基礎看護学実習 I 評価基準に基づき評価する。									
課題等	基礎看護学実習 I 要項を参照すること。									
事前事後学修	基礎看護学実習 I 要項を参照すること。									
教材教科書参考書	1年次に履修した科目に関するテキスト、参考書や資料等を活用すること。									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・この科目の履修要件は、学生便覧を参照すること。 ・実習時は、指定のユニホームを着用し、言動・身だしなみ等について注意する。看護を学ぶ学生として、品位を保ち、倫理に反しないよう行動する。 ・実習要項を熟読し、予習・復習を十分おこなって、主体的に臨む。 ・自己の健康管理に留意し、感染予防策を徹底する。 									

科目名	基礎看護学実習Ⅱ		科目ナンバリング	N-NP CT 2-49. H N	単位数	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期集中
	科目コード		N31002			時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	幸山 靖子、阿部 智美、村上翔太郎 (実務経験のある教員)				授業 形態	実習	複数
	アクティブラーニング	有								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>入院中の患者を受け持ち、看護過程を展開して看護を実践することを通して、患者の日常生活および健康状態を把握し、受け持ち患者に応じた看護を実践する基礎的能力を養う。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの3-1, 2 4-1, 2 5-1, 2に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者を統合体として理解し、全体像を捉える。 2. 受け持ち患者の看護過程を展開できる。 3. 日常生活の援助を適切に実践する。 4. 看護職者との医療従事者との連携について理解できる。 5. 看護職として基盤となる倫理観や看護観を培う。 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	実習オリエンテーション			実習の概要、目的・目標、実習の進め方、留意事項について説明、事前学習				学内(半日)		
第2回	学内オリエンテーション			実習病院の概要、受け持ち患者の説明、学内演習(バイタルサイン測定技術等の確認)、事前学習、病院実習1日目の実習目標設定				学内(半日)		
第3回	施設オリエンテーション、受け持ち患者の看護			受け持ち患者の紹介、アセスメント、看護、カンファレンス				各実習病院		
第4回	受け持ち患者の看護			アセスメント(情報収集、解釈・分析)、看護、カンファレンス				各実習病院		
第5回	受け持ち患者のアセスメント			アセスメント(情報収集、解釈・分析)、健康上の問題(看護診断)				学内		
第6回	受け持ち患者の看護			アセスメント(情報収集、解釈・分析)、看護、中間カンファレンス				各実習病院		
第7回	看護計画の立案			看護計画の立案				学内		
第8回	受け持ち患者の看護			看護計画に基づいた看護、カンファレンス				各実習病院		
第9回	受け持ち患者の看護			看護計画に基づいた看護、最終カンファレンス				各実習病院		
第10回	実習のまとめ			最終カンファレンス(実習のまとめ)、レポートの作成				学内		
評価方法及び評価基準	実習時間90時間の4/5以上の出席者について、基礎看護学実習Ⅱ評価基準に基づき評価する。									
課題等	基礎看護学実習Ⅱ要項を参照すること。									
事前事後学修	基礎看護学実習Ⅱ要項を参照すること。									
教材教科書参考書	2年次前期までに履修した科目に関するテキスト、参考書や資料等を活用すること。									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・この科目の履修要件については、学生便覧を参照すること。 ・実習時は、指定のユニホームを着用し、言動・身だしなみ等について注意する。看護を学ぶ学生として、品位を保ち、倫理に反しないよう行動する。 ・実習要項を熟読し、予習・復習を十分おこなって、主体的に臨む。 ・自己の健康管理に留意し、感染予防策を徹底する。 									

科目名	健康づくり実習 I		科目ナンバリング	N-NP CT 2-58.H N	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード		時 間	45時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	大瀬富士子・佐藤厚子・菅原大輔・ 小野綾・齊藤史恵・高橋義孝・木田優子 (実務経験のある教員)			授業 形態	実習	複数	
	アクティブラーニング	有								
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>看護の対象は地域で生活する人々とその家族であり、本実習では地域で生活する人々の生活を知り、生活を支える社会資源にはどのようなものがあるか実際を知る。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2、3、4、5に関連し、カリキュラムポリシーの2-2、3-1、3-2、4-2、5-2に関連している。</p>									
到達 目標	<p>1. 人々の多様な生活の実際を知る。</p> <p>2. 人々の多様な生活を支える社会資源について知る。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
1	オリエンテーション/計画の策定			実習オリエンテーション 計画の策定						
2	計画の修正/実習施設			計画の修正/フィールドワーク						
3	実習施設			フィールドワーク						
4	実習施設/まとめ(学内)			フィールドワーク/グループワーク						
5	実習報告会			グループワークとプレゼンテーション						
				※詳細については別途提示する						
評価 方法 及び 評価 基準	4/5以上の出席者につき、健康づくり実習1評価表に基づき総合的に評価をする。									
課題等	実習記録・レポート									
事前事 後学修	<p>事前：地域で生活(暮らし)することを学ぶために、事前に自分の生活を見つめること、生活に必要なこととは何かを考えておく(記録様式4-1)。</p> <p>事後：実際に地域の生活を見てインタビューして学んだことについて自分の考えをまとめてグループワークに臨む</p>									
教材 教科書 参考書	授業(ソーシャルスキル)で提示した教材や資料等									
留意点	<p>1) 実習生にふさわしい態度(対人面・学習面)を心がける。</p> <p>2) グループ単位の行動が多いため、メンバーシップを発揮し、主体的に行動する。</p>									

科目名	健康づくり実習Ⅱ		科目ナンバリング	N-NP CT 2-60. H N	単位数	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目コード	N31040	時間	90時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	佐藤厚子・中尾八重子・大瀬富士子・小野綾 齊藤史恵・菅原大輔・高橋義孝・木田優子 (実務経験のある教員)				授業 形態	実習	複数
	アクティブラーニング	有								
授業の概要	<p>[授業の主旨] 市町村の健康増進活動を理解すると共に、地域で暮らす人々のセルフケア能力向上に向けた支援ができる基礎的な能力を養う</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシー2, 3, 5に関連し、カリキュラムポリシー2-2, 3-1, 5-1, 5-2に関連する</p>									
到達目標	<p>1) 市町村の健康課題を理解できる。 2) 地域で暮らす人々の健康課題を捉えることができる 3) 地域で暮らす人々のセルフケア能力を向上するための健康教育を実践できる。 4) 対象者からのフィードバックを踏まえた健康教育の評価ができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容（授業時間外の学修を含む）						備考	
1	オリエンテーション/計画の策定（学内及び実習施設）		実習オリエンテーション 計画の策定/対象地域の情報収集						全員・各グループ	
2	実習施設		対象地域（施設）の情報収集・調整						各グループ	
3	学内または実習施設		健康教育企画書の作成						各グループ	
4	学内または実習施設		健康教育指導案の作成						各グループ	
5	学内または実習施設		健康教育指導教材の作成						各グループ	
6	学内または実習施設		健康教育シナリオの作成						各グループ	
7	学内または実習施設		健康教育デモンストレーション						各グループ	
8	学内または実習施設		健康教育シナリオ・教材修正						各グループ	
9	健康教育（実習施設）		健康教育の実践						各グループ	
10	実習の振り返り（学内）		健康教育実施後の振り返り（グループまとめ）						全員	
	※3-8回は必要に応じて実習施設で行う									
評価方法及び評価基準	4/5以上の出席者を対象に健康づくり実習評価表に基づき総合的に評価する。									
課題等	レポート、実習記録等は返却する。実習には主体性を持って参加する。									
事前事後学修	授業で紹介する参考図書は、必ず読み理解する。詳細は実習要項で説明する。									
教材教科書参考書	健康教育論で提示した教材や資料等。									
留意点	1) 社会人としてのマナーを守り、実習する学生にふさわしい態度（対人面、社会面）を心がける。 2) グループ単位の行動が多いため、メンバーシップを発揮し、主体的な行動をする。									

科目名	プライマリヘルスケア実習Ⅰ		科目ナンバリング	N-NP CT 2-59.H N	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期集中	
			科目コード	N31041	時間	45時間					
区分	看護実践科目 アクティブラーニング	必修 有	担当者名	井澤 美樹子 土屋 陽子 阿部 智美 村岡 祐介 村上 翔太郎 (実務経験のある教員)			授業 形態	実習	複数		
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>病を持ちながら生活調整をしている人々が、仲間と共に支え合う活動を通して、地域でどのように生活しているのかその実際を知る。看護への関心・対象理解そして自己理解が深まり、学修への動機づけとなる。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>デプロマポリシーの2, 3, 4, 5, に関連し、カリキュラムポリシー2-2, 3-1, 3-2, 4-1, 4-2, 5-1, 5-2に関連している。</p>										
到達 目標	<p>1. 生活調整・支援を必要としている人々の生活体験を聴くことができる。</p> <p>2. 仲間と共に支え合う活動の実際を知ることができる。</p> <p>3. 看護学を学ぶ意欲に繋げることができる。</p>										
実習方法	数名の小グループで、病を持ちながら生活している人々の体験を聴くことや、調べ学習を通して対象理解を深める。学びをまとめ、報告会により学びを共有する。										
実習計画・内容											
回	主 題		授業内容						備考		
1	学内	実習オリエンテーション 学内演習	<p>1) 実習オリエンテーション</p> <p>2) プライマリヘルスケア実習Ⅰの概要説明</p> <p>3) 傾聴を学ぶ(演習)</p> <p>4) 聴くための準備</p>								
2,3	地域1	施設オリエンテーション 対象へのイ ンタビュー	<p>1) 施設(患者会等)の特徴、留意事項等オリエンテーションを受ける。</p> <p>2) コミュニケーションを通して対象者との関係を形成する。</p> <p>3) (座談会形式による)グループインタビューを実施する。</p> <p>4) 学生間で役割分担をして進める。</p>						*実習2,3回目の地域は、1→2あるいは、2→1の順番となる。		
	地域2	調べ学習	病を持ちながら生活している人の生活や共に支え合う活動について、多様な情報を通して(新聞・ブログ・手記・市内公共施設の探索・イベント参加など)、その実際を知る。								
4	学内	情報整理(実習グループ 毎)	<p>1) インタビュー内容や調べ学習の内容を実習目標に沿ってまとめる。</p> <p>2) 学生間で役割分担をして進める。</p>								
5	学内	合同報告会	<p>1) グループごとにポスターツアーによる発表し意見交換を行う。</p> <p>2) 実習目標に沿って実習の学びを共有する。</p>								
評価 方法 及び 評価 基準	5/4以上出席することにより評価の対象とし、施設での活動・グループ活動への主体的・積極的な取り組み状況を含む実習目標達成度：40点、個人記録：30点、グループでの提出物：30点により評価する。										
課題等	個人課題・グループ課題										
事前事後 学修	「体験できて良かった」で終わらず、体験を振り返り、どのような気づきがあったのか、考える時間を作ってください。										
教材 教科書 参考書	なし										
留意点	大人としてのマナーを守り、誠実な態度で実習に臨んでください。また、様々な個人情報を知ることもあります。守秘義務を心に留めて実習をして下さい。										

科目名	プライマリヘルスケア実習Ⅱ		科目ナンバリング	N-NP CT 2-61. H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期集中
			科目コード	N31042		45時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	高田まり子・対馬明美・村上翔太郎 (実務経験のある教員)			授業 形態	実習	複数	
	アクティブラーニング	有								
授業の 概要等	〔授業の主旨〕									
	病や障害を持ちながら地域で生活する人々が自身の望む生活を実現させるために必要な自助・共助・公助の実際と、看護職が担う支援について学ぶ。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-2, 3-1, 3-2, 4-2, 5-1, 5-2に関連している。									
到達 目標	1. 病や障害を持ちながら地域で生活する人々の健康及び生活に対するニーズを理解できる。 2. 病や障害を持ちながら地域で生活する人々の障害や健康状態をアセスメントし、対象に応じた援助の必要性を理解できる。 3. 病や障害を持ちながら地域で生活する人々の援助の実際を通して、看護専門職の役割について理解できる。 4. 病や障害を持ちながら地域で生活する人々を取り巻く保健医療福祉の関係機関と現状を理解できる。 5. 病や障害を持ちながら地域で生活する人々に対する権利養護や倫理的配慮について学び、常に相手を尊重する態度を養う。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
実習前	臨地実習ガイダンス			臨地実習全体のオリエンテーション（臨地実習開始前） プライマリヘルスケア実習Ⅱの概要説明						
1日目	学内	学内オリエンテーション 学内演習		1) 実習の目的・目標・方法の理解を深める 2) 事前準備						
2日目	臨地	施設オリエンテーション 援助の実際		1) 施設(対象者)の特徴、留意事項等オリエンテーションを受ける 2) 施設(対象者)の援助に参加し対象者とのコミュニケーションを通し理解を深める 3) 受け持ちの健康や生活のニーズ。支援について情報収集をする						
3日目	臨地	援助の実際		1) 受け持ちの対象者への療養上の世話や援助を見学・一部実施する。 2) カンファレンスで1日の学びを共有する 3) 公助やレスパイトケアの必要性、関連機関の実際について記録類や家族のコミュニケーションなどから把握する						
4日目	臨地	援助の実際		1) 受け持ちの対象者への療養上の世話や援助を見学・一部実施する。 2) カンファレンスで1日の学びを共有する 3) 公助やレスパイトケアの必要性、関連機関の実際について記録類や家族のコミュニケーションなどから把握する						
5日目	学内	合同カンファレンス		1) 実習目標に沿って実習の学びを共有する						
評価 方法 及び 評価 基準	4/5以上出席することにより評価の対象とし、「プライマリヘルスケア実習Ⅱ評価表」に基づき総合的に評価する。									
課題等	個人課題・グループ課題									
事前事後学修	1. 実習施設の特徴や対象となる人々の病や障害について調べる。 2. 病や障害を持ちながら地域で生活する人々の自助・共助・公助について調べる。 3. 地域療養を支える保健医療福祉制度について調べる。									
教材 教科書 参考書	なし									
留意点	大人としてのマナーや守秘義務を守り、誠実な態度で実習に臨んでください。実習1～3日目は日々のショートカンファレンス、実習4日目は臨地でのまとめのカンファレンスを行う。実習5日目の学内合同カンファレンスでは病や障害及び施設の特徴をあらかじめグループ単位で整理し、相互の学びを共有できるように臨んでください。									

科目名	成人看護学実習 I		科目ナンバリング	N-NP 2-39. H N	単位数	2単位	対象学年	3年～4年	開講学期	3年後期～4年前期	
			科目コード	N31004	時間	90時間					
区分	看護実践科目 アクティブラーニング	必修 有	担当者名	井澤美樹子, 土屋陽子 (実務経験のある教員)			授業形態	実習	複数		
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>健康障害を持ちながら生活していく生活者としての成人および高齢者とその家族を、包括的な視点から理解し、対象の健康状態に応じた療養生活支援に必要な実践能力を養う。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシー2-2, 3-1, 3-2, 4-1, 4-2, 5-1, 5-2に関連している。</p>										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 生活者である対象の健康状態を理解し、健康障害が及ぼす身体的・心理的・社会的影響を理解できる。 対象の最良の健康状態を目指し、科学的根拠に基づいた看護を実施できる。 保健医療チームにおける看護者の役割と責任、チーム間の連携や協働および関係機関との連携のあり方を理解できる。 看護の対象となる人の権利の保障や倫理的配慮について学び、常に相手を尊重する態度を養う。 										
授 業 計 画											
回	主 題			授 業 内 容						備考	
実習前	臨地実習ガイダンス			臨地実習全体のオリエンテーション（臨地実習開始前） 成人看護学実習 I の概要説明・事前学習について							
1週目	初日	学内オリエンテーション 学内演習		<p>1. 実習計画・内容</p> <p>①2週間の実習を行う。</p> <p>②各クールの実習1日目は、学内で実習施設毎のオリエンテーションと演習を行う。</p> <p>・実習日程と実習の進め方、留意事項、実習施設に関する説明 ・学内演習：慢性病のある人の事例を用いた対象理解・技術演習 ③連携室等の見学実習を行い継続看護・他職種連携の現状と看護の役割を理解する。</p> <p>④1週目・2週目に、中間・最終カンファレンスを行う。</p> <p>⑤実習最終日は、学内実習で個別面接・実習記録整理・レポート作成を行う。</p> <p>2. 実習方法</p> <p>①慢性期・終末期にある成人期あるいは老年期の患者を原則1名受け持ち、看護を展開する。</p> <p>②実習時間：8時30分から16:15分（実習施設や教育上必要と認められる場合は、時間を変更することがある）</p> <p>③実習指導者・教員の指導のもとに実習を行う。</p> <p>④知識を深め、学びを共有するために、様々なカンファレンスを行う。</p> <p>⑤卒業時看護技術到達度の自己チェックを行い、実践力向上を目指して積極的に実習をする。</p>							
	2～5日目	病棟実習 中間カンファレンス									
2週目	1～4日目	病棟実習 見学実習 最終カンファレンス									
	5日目	学内実習 個別面接 レポート作成 実習記録整理 記録提出									
評価方法及び評価基準	5/4以上出席することにより評価の対象とする。 その上で、「成人看護学実習」評価表（実習目標到達度80点、実習に臨む姿勢10点、実習ケースレポート10点）に基づき評価する。										
課題等	根拠に基づいた看護をするために、受け持ち患者の状況に合わせ、随時課題を提示する。										
事前事後学修	成人看護学実習事前課題（実習要項記載）は実習開始前までに計画的に行い、活用できるように整理しておくこと。										
教材教科書参考書	授業で使用したテキストや資料など、対象理解や技術提供に必要な教科書や資料を自ら必要性を判断して実習施設に持参して活用すること。										
留意点	チームの一員としての自覚を持ち、主体的な姿勢で臨むこと。時間や体調などのセルフ・マネジメントをすること。										

科目名	成人看護学実習Ⅱ		科目ナンバリング	N-NP CT 2-51. H N	単位数 時間	2単位 90時間	対象 学年	3年～4年	開講 学期	3年後期 ～ 4年前期
			科目コード	N31006						
区分	看護実践科目	必修	担当者名	村岡 祐介 (実務経験のある教員)			授業 形態	実習	単独	
	アクティブラーニング	有								
授業の概要	<p>〔授業の主旨〕 成人・老年期の発達課題や特徴をふまえ、急性期および周手術期、リハビリテーション期にある対象と、その家族の健康問題を総合的に理解し看護の実践方法を学ぶ。対象のセルフケア能力に合わせた健康問題解決のための援助を行うことにより、既習の知識・技術との統合を目指す。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1、2、3、4、5およびカリキュラムポリシーの2-1, 2、3-1, 2、4-2、5-1, 2に関連する。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 生活者である対象の健康状態を理解し、健康障害が及ぼす身体的・心理的・社会的影響を理解できる。 対象の最良の健康状態を目指し、科学的根拠に基づいた看護を実施できる。 保健医療チームにおける看護者の役割と責任、チーム間の連携や協働および関係機関との連携のあり方を理解できる。 看護の対象となる人の権利の保障や倫理的配慮について学び、常に相手を尊重する態度を養う。 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)					備 考		
実習前	臨地実習ガイダンス		臨地実習全体のオリエンテーション (臨地実習開始前) 成人看護学実習Ⅱの概要の説明					実習グループ 全員出席		
実習前	施設オリエンテーション		施設オリエンテーション (臨地実習開始前)					実習グループ 全員出席		
1	学内オリエンテーション、 学内演習、受け持ち患者の決定		学内オリエンテーション：実習の進め方、留意事項、実習病棟概要の説明 学内演習：事例に基づき成人看護技術の演習を行う					実習		
2	受け持ち患者の看護		<ol style="list-style-type: none"> 入院中の周手術期患者を原則として1名受け持ち、看護過程を展開する。 コミュニケーション技術を適切に用い、患者・家族に接する。 患者の入院前の生活や健康障害の特徴、健康障害によってもたらされた生活や社会活動への影響等の情報を収集し、分析・解釈する。 優先度を考え看護上の問題を抽出する。 受け持ちの患者に適した看護計画を立案する。 受け持ちの患者に適した看護ケアを実施する。 看護ケアを実施する際には、患者に説明し了解を得る。 看護ケアを実施する際には、患者の安全・安楽に配慮して実施する。 看護ケアは原理・原則や患者の残存機能を考慮した方法で実施する。 ケアの結果と患者の反応から目標の到達度を評価し、必要に応じて計画を修正・追加する。 中間カンファレンスおよび最終カンファレンスでは、臨地実習指導者・学生間の意見交換を通して、受け持ち患者に対する援助の妥当性を吟味する。 患者が退院後にセルフケア能力を発揮できるように支援する。 患者・家族に関わる専門職種間の連携・協働の必要性と看護職の役割や機能を学ぶ。 					実習		
3	受け持ち患者の看護							実習		
4	受け持ち患者の看護		実習							
5	受け持ち患者の看護 中間カンファレンス (ケースカンファレンス)		実習 プレゼンテーション ディスカッション							
6	受け持ち患者の看護		実習							
7	受け持ち患者の看護、見学実習※		実習							
8	受け持ち患者の看護		実習							
9	受け持ち患者の看護 最終カンファレンス		実習 プレゼンテーション ディスカッション							
10	実習のまとめ		実習 グループワーク プレゼンテーション ディスカッション							
評価方法 及び 評価 基準	4/5以上の出席者について「成人看護学実習評価表」に基づき評価する。									
課題等	各々の受け持ち患者、学習状況によって課題を提示する場合がある。 実習記録は評価が済み次第返却する。									
事前事後 学習	日々の行動予定に合わせて事前学習を行うこと。									
教材 教科書 参考書	授業で使用したテキスト、資料、事前学習ノート等を活用すること。									
留意点	健康管理には十分に留意すること。									

科目名	老年看護学実習		科目ナンバリング	N-NP CT 2-52. H N	単位数 時 間	1単位	対象 学年	3年～4年	開講 学期	3年後期～ 4年前期
	科目コード			N31008		45時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	佐藤 厚子、小野 綾 (実務経験のある教員)			授業 形態	実習	複数	
	アクティブラーニング	有								
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 高齢者の身体面・精神面・社会面を含めた全体像を捉え、必要な看護を実践できる能力を養う。高齢者を支える資源としての特別養護老人ホーム・デイサービスが果たす役割を知り、コミュニティーにおける看護とは何かを考える力を養う。専門職としての自覚を養い、高齢者を尊重し尊厳を守る態度を身につける。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4, 5に関連する。 カリキュラムポリシーの1-1, 2-2, 3-1, 3-2, 4-2, 5-1, 5-2に関連する。</p>									
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者を受け持ち身体的・精神的・社会的な面から全体像を捉える事ができる。 2. その人らしい生活を送るための個別的看護が援助できる。 3. 高齢者の自立した生活を支援するための看護の役割を理解することができる。 4. 多職種との連携の重要性を理解し、自身もチームの一員として積極的に行動できる。 5. 老年観、倫理観、看護観について言語化し、発表する事ができる。 									
回	主 題		授業内容					備考		
	臨地実習ガイダンス		臨地実習の全体オリエンテーション(臨地実習開始前) 老年看護学実習の概要の説明、事前学習の説明					全員出席		
1	オリエンテーション		午前：学内オリエンテーション、実習の進め方、留意事項、実習施設の概要について説明。午後：実習施設に移動し、オリエンテーションを受ける。					学内・実習施設		
2	受け持ち対象者の看護		高齢者を1名受け持ち、看護過程を展開する。 カンファレンスは学生主体で行う。 詳細は老年看護学実習要項に示す。					実習施設		
3	受け持ち対象者の看護							実習施設		
4	受け持ち対象者の看護 施設内カンファレンス							実習施設		
5	まとめ会		看護内容を振り返り、省察する。看護過程展開の発表及び評価。 概念図作成					学内・PBL		
6										
7										
8										
9										
10										
評価 方法 及び 評価 基準	4/5以上の出席者を対象に老年看護学実習評価基準により評価する。									
課題等	老年看護学実習要項を参照してください。									
事前事 後学修	老年看護学実習要項を参照してください。									
教材 教科書 参考書	老年看護学の講義で使用した教科書と参考資料、人体の構造の講義で使用した教科書、人体の機能の講義で使用した教科書、各自の自己学習資料									
留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 施設利用者の健康を守るため、咳嗽や発熱がある学生は実習出来ない。そのため自己健康管理が必要である。 2. 事前学習と実習中の学習を十分に行うこと。 3. 主体性をもって実習を行うこと。 4. 身だしなみを整えること 5. 真摯な態度で臨むこと。 									

科目名	小児看護学実習		科目ナンバリング	N-NP CT 2-53. H N	単位数	2単位	対象学年	3年～4年	開講学期	3年後期～4年前期
	科目コード			N31010	時間	90時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	齊藤 史恵 木田 優子 (実務経験のある教員)			授業形態	実習	複数	
	アクティブラーニング	有								
授業の概要	<p>〔授業の主旨〕 健康増進や成長発達促進の観点から、あらゆる健康段階レベルにある小児とその家族に対して、健康回復と健康の保持増進への看護援助を実践するための基礎的知識・技術・態度の修得を目指す。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシー1, 2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシー1-1, 2-2, 3-1, 3-2, 4-2, 5-1, 5-2に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児各期の成長・発達過程を理解することができる。 2. 小児に親しみ、小児をひとりの人として尊重し、権利を持つ存在であることを理解できる。 3. 成長発達促進の観点から、小児各期に応じた適切な保育を行うための知識と技術を習得できる。 4. 小児の発達段階や疾患の状態に応じた、小児にふさわしい環境について理解できる。 5. 小児の主な疾患および諸症状と、疾患が小児に及ぼす影響を理解できる。 6. 小児の発達段階および疾患の状態に応じて適切な看護を計画・実践・評価できる。 7. 小児と家族のQOLの維持・向上を目指した援助について多角的に考察できる。 8. 小児の医療看護における倫理的課題および看護職者として必要な職業倫理について考え判断するための基礎的能力を身につけ、実践できる。 9. 小児とその家族が抱える問題の解決にあたり、多職種との連携と協働、継続看護の特徴とその役割を理解できる。 									
授業計画										
回	主 題		授業内容（授業時間外の学修を含む）					備考		
	臨地実習ガイダンス		臨地実習全体のオリエンテーション（臨地実習開始前） 小児看護学実習の概要の説明、事前学習を行う。					全員出席		
1	保育所実習オリエンテーション（学内）		学内オリエンテーション 実習の進め方、留意事項、実習施設の概要について説明					実習グループ全員出席		
2	保育所実習（保育所）		1、施設オリエンテーション 2、保育所の日課にしたがって、担当保育士の指導のもとに保育に参加し、子どもについての理解を深める。							
3	保育所実習、実習のまとめ（保育所）									
4	保育所実習（学内）		保育に関連した課題（グループワーク）と作成 成長発達段階にある地域の子どもの現状について理解を深める							
5	保育所実習（学内）		課題の発表					グループワーク・プレゼンテーション		
6	病院実習（学内、病院）		技術チェック（学内）、施設オリエンテーション（病院）							
7	病院実習（病院）		1、原則として入院している患児1名を受け持ち、看護過程を通して看護の方法・実践を学ぶ。 2、外来を受診する小児と家族に対する看護の特徴および役割を学ぶ							
8	病院実習（病院）									
9	病院実習（病院）									
10	病院実習、実習のまとめ（病院、学内）		小児看護学実習でのまとめ、実習の評価を発表する。							
			○その他、詳細については、小児看護学実習要項を参照							
評価方法及び評価基準	<p>保育所実習、病院実習合わせての出席（5分の4以上） 小児看護学実習評価表に基づき必要な知識、根拠ある技術、実習態度を総合的に評価する。</p>									
課題等	事前学習課題については、あらかじめ提示してあるものをもとに実習を行う施設、病院に合わせて学習すること									
事前事後学修	<p>実習初日に、小児看護に必要な看護技術のデモンストレーションを実施していただきます。準備をしっかり行い臨んでください。看護過程展開がスムーズに行えるように授業で学習してきたこと（発達、症状看護、疾患看護）を中心に頭に入れてきてください。準備学習時間の目安：1日あたり1時間以上</p>									
教材教科書参考書	<p>授業で使用したテキスト、プリントなどの資料を活用すること。 実習に関連した文献は、各自で探し実習場に持参してください。 すぐにものを調べられるような、辞書があれば便利です。</p>									
留意点	<ol style="list-style-type: none"> ① 実習にあたって最も重要なことは感染予防と健康管理である。小児期の感染症について十分に学習して知識を深めておくとともに、感染予防行動を確実に身につけて臨む。自己の健康管理を徹底する。体調不良時は必ず申告すること。冬期の実習においてはインフルエンザなどの予防接種を済ませてから実習に臨むこと（接種していない人でも外来で実習することになります。） ② 小児感染症の抗体価が低く予防接種を受けていない場合、実習は認められないのであらかじめ対応しておく。 ③ 実習生にふさわしい態度（対人面・学習面）を心がける。 ④ 主体的に自己の実習内容と到達目標を設定すること。保育所前には、基礎的学力のチェックと病院実習の前には、学生による技術のデモンストレーションを行う。学習が足りないと判断された場合、実習場に行くことはできません。 									

科目名	母性看護学実習		科目ナンバリング	N-NP CT 2-54. H N	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年～4年	開講 学期	3年後期～ 4年前期
			科目コード	N31012		90時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	大瀬 富士子 (実務経験のある教員)			授業 形態	実習	単独	
	アクティブラーニング	有								
授業の概要	<p>〔授業の主旨〕 母性看護の対象（狭義での対象として、妊婦・産婦・褥婦・新生児とその家族）の特性を理解し、母子ともに健康に過ごせるように、母子とその家族に対する看護の基礎的な実践能力を養う。 退院後や地域での継続した育児支援を理解する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3、4、5に関連し、カリキュラムポリシーの3-1、3-2、4-2、5-2に関連する。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊婦と胎児の健康状態を理解し、妊娠期が正常に経過していることが理解できる。 2. 分娩各期の経過から産婦の特徴を理解し、必要な看護がわかる。 3. 褥婦が回復し、心身の変化に適切していく過程を理解するとともに、健康状態をアセスメントし看護過程展開ができる。 4. 新生児が胎外生活に適応していく過程が理解するとともに、健康状態をアセスメントできる。 5. 退院に向けて諸条件を整え、家族を含めた指導の必要性が理解できる。 6. 母子にかかわる諸制度と母子保健医療チームの連携について理解できる。 7. 退院後や地域での継続した育児支援を理解できる。 8. 生命の尊厳について学びを深めることができる。 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容（授業時間外の学修を含む）						備 考	
	臨地実習ガイダンス		臨地実習全体のオリエンテーション 事前学習について						実習	
1	オリエンテーション		学内で母性看護学実習オリエンテーション 実習の概要・進め方 母性にかかわる技術確認						実習	
2	施設オリエンテーション、 受け持ちの母子の情報収集①		産褥期新生児期の母子の看護を中心に行い、 分娩期の看護を行うこともある。						実習	
3	受け持ちの母子の看護②								実習	
4	受け持ちの母子の看護③								実習	
5	受け持ちの母子の看護④								実習	
6	勉強会主催の準備		地域の育児支援勉強会主催準備する。						実習	
7	地域の育児支援		地域における継続した育児支援を学ぶ。						実習	
8	マタニティクラス企画準備 カンファレンス		マタニティクラス企画準備、 カンファレンス、妊婦健康診査情報収集						実習	
9	妊婦健康診査		妊婦1名を受け持ち妊婦健康診査を理解できる。						実習	
10	マタニティクラス運営（学内）、 実習まとめ報告		マタニティクラス運営と「母性看護にかかわる看護職の仕事」 をテーマとし話し合い、イメージ図作成し報告する。						実習	
評価 方法及び 評価 基準	<p>4/5以上の出席が評価の対象となります 母性看護学実習評価に基づき、実習目標と実習態度に対する評価 45% 事前学習 10% 毎日の記録、看護過程展開などの記録物 45%</p>									
課題等	事前学習課題を提示するので作成する 事前に技術確認（新生児観察、沐浴など清潔、褥婦観察、分娩期の看護、出生直後の新生児、新生児蘇生法、 妊婦健康診査、胎児心拍モニタリングなど）を行う									
事前事後学修	事前に技術チェック（沐浴）を合格できるように練習すること、事前学習の知識の再確認をしておくこと 受け持ち時は母子の看護過程展開した記録をして提出する。									
教材 教科書 参考書	教科書および授業で提示した教材や資料等									
留意点	グループで協力し合い、学びを共有する。 体調管理に留意して実習に臨む。									

科目名	精神看護学実習		科目ナンバリング	N-NP CT 2-55. H N	単位数	2単位	対象学年	3年～4年	開講学期	3年後期～4年前期
			科目コード	N31014	時間	90時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	菅原大輔(実務経験のある教員) 高橋義孝(実務経験のある教員)			授業形態	実習	複数	
	アクティブラーニング	有								
授業の概要等	<p>[授業の主旨]</p> <p>精神保健上の問題を持っている人々を理解し、生活上に表れている障害とその心理状態をとらえ、治療環境をいかに生かしていくか、その治療環境を構成するメンバーの一人としてどのように関わるかを学ぶ。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]</p> <p>ディプロマポリシーの2、4、5に関連し、カリキュラムポリシーの2-2、4-2、5-1、5-2に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神に障がいを持つ人々のケアをととして精神看護の対象を理解する。 2. 精神に障がいを持つ人々が心の健康を回復するプロセスを理解する。 3. 精神に障がいを持つ人々が社会復帰するための支援方法について理解する。 4. 精神に障がいを持つ人々との関わりをととして自己洞察できる。 5. 精神に障がいを持つ人の特徴を理解し、状態に応じた適切な計画および実践する能力を養う。 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
	臨地実習ガイダンス			臨地実習全体のオリエンテーション（臨地実習開始前） 精神看護学実習の概要および事前学習の説明						
1	オリエンテーション			学内オリエンテーション 精神看護学実習要項に沿って実習の進め方、留意事項を説明する。また事前学習における知識確認を個別に行う。				反転学習		
2	施設オリエンテーション 受け持ち患者の看護			<ol style="list-style-type: none"> 1. 病棟実習では患者を受け持ち、看護過程を展開する。 (基本情報の収集、情報の分析と解釈、問題点の抽出、問題点の優先順位の決定、看護計画の立案、看護計画の実践と評価) 2. 精神科デイケアでは利用者に関わり、生活上の困難について考察する。またメンバーとともに治療プログラムに参加し、その意義について考察する。 3. 入院患者や利用者に対する専門多職種役割を知り、それが社会復帰にどのように影響しているのか考察する。 4. 入院患者や利用者の生活上の強み（ストレンクス）を考察し、ケアに活かす。 				フィールドワーク		
3	受け持ち患者の看護							フィールドワーク		
4	受け持ち患者の看護							フィールドワーク		
5	受け持ち患者の看護							フィールドワーク		
6	受け持ち患者の看護							フィールドワーク		
7	受け持ち患者の看護							フィールドワーク		
8	受け持ち患者の看護							フィールドワーク		
9	受け持ち患者の看護							フィールドワーク		
10	学内カンファレンス			学生は受け持ち患者の基礎情報と実際の看護について口頭で発表する。質疑応答を繰り返して学生間で情報共有ができるようにする。				ディスカッション		
評価方法及び評価基準	看護過程、援助関係、倫理的態度、実践態度、患者や利用者との関わりを網羅した「精神看護学実習評価表」にしたがって評価する。									
課題等	実習の記録物（受け持ち患者の看護過程、レポート、日々の記録など）は毎日更新すること。									
事前事後学修	精神看護学実習要項に記載している事前学習内容に沿って実習の準備を進める。学習時間の目安は1日あたり30分以上。									
教材教科書参考書	精神看護学概論・精神看護方法論・精神看護援助論で使用した教科書および資料を活用する。 精神看護学実習に関連する自己学習資料を活用する。									
留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 記録物は、迅速かつ丁寧に仕上げ、自分の援助体験をもとに意見交換と記録ができるようにすること。 2. 実習中は主体的に行動できるよう事前学習を十分にすること。 									

科目名	地域看護学実習		科目ナンバリング	N-NP CT 2-61.H N	単位数 時 間	1単位	対象 学年	3年～4年	開講 学期	3年後期～ 4年前期
			科目コード	N31043		45時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	日下 純子・中尾 八重子 (実務経験のある教員)				授業 形態	実習	複数
	アクティブラーニング	有								
授業の概要	<p>[授業の主旨] 地域で生活する人々の保健医療福祉の現状を理解し、人々の健康増進・向上のための支援委に必要な基礎的能力を養う。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシー2・3・4・5に関連し、カリキュラムポリシー2-2, 3-1, 3-2, 4-2, 5-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1) 地域で生活する高齢者の健康や生活を支える保健医療福祉に関する社会資源とその活用の実態を把握できる。 2) 地域で生活する高齢者の健康保持増進や生活維持のための社会資源の発揚方法を説明できる。 3) 地域包括支援センターの活動の基盤となる理念・理論、法制度への理解を深め、看護職の役割について考察できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容（授業時間外の学修を含む）						備考	
1	オリエンテーション/講話		1) 実習施設を管轄する市町村の高齢者対策 2) 地域包括支援センターが支援した事例と活用した人的社会資源						全員	
2	社会資源		1) 事例が活用した社会資源の整理 2) インタビューガイド作成 3) 地区踏査						グループワーク	
3	高齢者を支える人々と社会資源の活用		1) インタビューの実施とまとめ						グループワーク	
4	地域で生活する高齢者の健康・生活の維持と社会資源		地域にある社会資源 地域で生活する高齢者の健康・生活の維持						グループワーク	
5	実習のまとめ		報告会							
評価方法及び評価基準	4/5以上の出席者を対象に地域看護論実習評価表に基づき総合的に評価する。									
課題等	実習には主体性を持って取り組む。									
事前事後学修	授業で紹介する参考図書は、必ず読み理解する。詳細は実習要項で説明する。									
教材教科書参考書	授業で提示した教材や資料等。									
留意点	1) 社会人としてのマナーを守り、実習する学生にふさわしい態度（対人面、社会面）を心がける。 2) グループ単位の行動が多いため、メンバーシップを発揮し、協働する。									

科目名	在宅看護実習		科目ナンバリング	N-NP CT 2-56. H N	単位数	1単位	対象 学年	3年～4年	開講 学期	3年後期～ 4年前期
			科目コード	N31018	時間	45時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	高田 まり子、對馬 明美 (実務経験のある教員)			授業 形態	実習	複数	
	アクティブラーニング	有								
授業の概要等	<p>[授業の主旨]</p> <p>地域社会で展開されている在宅看護活動の特徴を学ぶ。 訪問看護ステーションを利用する療養者及び家族のニーズや健康状態のアセスメントを行い、必要な援助方法を学ぶ。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]</p> <p>ディプロマポリシーの2, 3, 4, 5と、カリキュラムポリシーの2-2, 3-1, 3-2, 4-2, 5-1, 5-2に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養者とその家族の特徴と健康及び生活に対するニーズを関連づけて理解できる。 2. 在宅療養者とその家族の健康の保持・増進、疾病予防に向けた日常生活の援助が実践できる。 3. 在宅療養者の障害や健康状態をアセスメントし、対象に応じた援助が実践できる。 4. 在宅療養者を取り巻く保健・医療・福祉の関係機関と現状が理解できる。 									
授業計画										
回	主題		授業内容					備考		
第1回	オリエンテーション		午前学内・午後臨地施設オリエンテーション 午前事前学習の口頭試問、在宅看護技術の自己学習の確認					午前学内・午後臨地実習		
第2回	同行訪問ケースの看護		同行訪問ケースの看護（社会資源・多職種連携を含めた情報収集・アセスメントを行い、訪問目的・計画に応じた看護の実施・評価を行う）					臨地実習		
第3回	同行訪問ケースの看護		同行訪問ケースの看護（社会資源・多職種連携を含めた情報収集・アセスメントを行い、訪問目的・計画に応じた看護の実施・評価を行う）					臨地実習		
第4回	同行訪問ケースの看護		同行訪問ケースの看護（社会資源・多職種連携を含めた情報収集・アセスメントを行い、訪問目的・計画に応じた看護の実施・評価を行う）					臨地実習		
第5回	学内実習		最終カンファレンス（実習目標の達成状況・実習姿勢等自己の学びを発表し、相互の学びを深める）					学内実習		
第6回										
第7回										
第8回										
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
評価方法及び評価基準	4/5以上の出席者につき、在宅看護実習評価表に基づき、知識・技術・態度など総合的に評価する。									
課題等	実習要項事前学習の項を参照し、知識の復習・技術の自己練習をして臨む。									
事前事後学習	実習要項事前学習の項を参照し、知識の復習・技術の自己練習をして臨む。実習終了後、実習目標に沿って実習の学びについてレポートにまとめ実習記録に綴り提出する。									
教材教科書参考書	授業で使用したテキスト・プリント・自己学習資料を活用すること。									
留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養を支える看護を修得していること。 2. 実習にあたって最も問題となるのは感染予防と健康管理である。在宅における感染予防行動を確実に身につけて臨む。 3. 療養者・家族の生活の場への訪問マナーを守り、実習生にふさわしい態度（対人面・学習面）を心がける。 4. 事前学習を十分に行うこと。 									

科目名	公衆衛生看護管理論		科目ナンバリング	N-PH NI 4-03. P P	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	N40004		30時間				
区分	看護実践科目	保健師必修	担当者名	中尾 八重子 (実務経験のある教員)				授業 形態	講義	単独
	アクティブラーニング	有								
授業の概要	<p>[授業の主旨] 地域特性を踏まえ、コミュニティで生活するあらゆる発達段階や健康レベルの人々と、対象集団全体の健康増進を図るための公衆衛生看護管理機能を学ぶ。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの1、2、3に関連し、カリキュラムポリシー1-1、2-1、3-1に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生看護管理の目的と特徴を説明できる。 2. 公衆衛生看護管理の具体的な機能とその活動を記述できる。 3. 公衆衛生看護活動における事業・業務管理の考えかたと方法を説明できる。 4. 公衆衛生看護活動における個人情報管理と方法を説明できる。 5. 地区活動の基本となる地域の把握と健康課題の抽出ができる。 									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容（授業時間外の学修を含む）					備考	
第1回	公衆衛生看護活動の構造			地域の把握と健康課題、事業計画、保健師の役割						
第2回	公衆衛生看護活動を支える組織と制度			公衆衛生および公衆衛生看護活動の組織とその特徴、ヘルスプロモーションと健康政策						
第3回	公衆衛生看護管理とは			公衆衛生看護管理活動の定義と目的、特徴						
第4回	公衆衛生看護管理の基本となるもの			公共性、住民の権利保障、職業倫理						
第5回	地域管理（1）			地域診断の方法（コミュニティ・アズパートナーモデル）						
第6回	地域管理（2）			演習：地域の特徴の把握（既存資料の種類と内容）					グループワーク	
第7回	地域管理（3）			演習：既存資料に基づく地域の情報のアセスメント					グループワーク	
第8回	地域管理（4）			演習：アセスメントの統合と分析					グループワーク	
第9回	地域管理（5）			演習：健康課題の対策					グループワーク	
第10回	地域管理（6）			発表					プレゼンテーション	
第11回	事業運営・業務管理（1）			PDCA（Plan-Do-Check-Action） 事業評価						
第12回	事業運営・業務管理（2）			事例検討の意義と方法						
第13回	情報管理			保健師活動で扱う情報の特徴、記録作成の基礎的知識 演習：記録の質を高めるための書き方						
第14回	組織運営・管理、予算管理			組織としての活動、予算の確保と執行						
第15回	人事管理・人材育成			現任教育、新人保健師の到達目標						
評価方法及び評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1) 2/3以上の出席者につき、演習（地域診断）への取り組みと成果、定期試験等から総合的に評価 2) 演習：40% 3) 定期試験：60% 									
課題等	演習の成果は、返却しない。									
事前事後学修	公衆衛生看護に関する他の科目のテキストや資料の見直し。									
教材教科書参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書：標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論 第6版 医学書院 2022 ISBN978-4-260-04707-4 ・必要に応じて適時、参考資料を配付する。 									
留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1) 「コミュニティ」と関連付けて学習し理解を深める。 2) 演習には主体的にチームの一員としてメンバーと協働して取り組むこと。 									

科目名	対象別公衆衛生看護活動論		科目ナンバリング	N-PH NI 4-04. P P	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	3年	開講 学期	前期
区分	看護実践科目	保健師必修	科目コード	N30054	日下 純子 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独
授業の 概要	アクティブラーニング	有	[授業の主旨] 公的ヘルスケアサービスの中で機能する看護職が、人々の健康・生活を護るための、看護活動の考え方や方法を学ぶ。 また、人々の健康及び生活の現状と、それに関連する各種関係法規、施策、社会資源等を、対象別に体系的に学ぶ。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの2、3、4に関連し、カリキュラムポリシーの3-1に関連している。							
到達 目標	1) コミュニティに生活する人々の、健康に寄与する看護の活動方法と重要となる考え方を理解することができる。 2) 人々の健康・生活の現状を、地域特性、対象特性をふまえて理解し、今日的健康課題を考察することができる。 3) 人々の健康・生活に関連する各種法規、施策、社会資源等を理解することができる									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容 (授業時間外の学修を含む)						備考	
第1回	ライフサイクルと公衆衛生看護活動		ライフサイクルにおける保健活動の実際 思春期～高齢期の発達段階と対象への接近							
第2回	次世代を育むための活動 (1)		我が国の切れ目のない母子保健施策の現状と今後の展望							
第3回	次世代を育むための活動 (2)		母子保健活動の実際						PBL	
第4回	次世代を育むための活動 (3)		母子保健活動の実際～児童虐待						PBL	
第5回	次世代を育むための活動 (4)		健康上のリスクを持つ母子への支援～障害児						レポート	
第6回	地域の健康づくり (1)		成人期にある人々の健康と生活							
第7回	地域の健康づくり (2)		成人期の人々の健康と保健師活動～保健・医療・福祉の連携と 予防活動							
第8回	地域の健康づくり (3)		社会資源の開発と実際～セルフ・ヘルプ・グループ (1)							
第9回	地域の健康づくり (4)		社会資源の開発と実際～セルフ・ヘルプ・グループ (2) 演習						グループワーク プレゼンテーション	
第10回	リスクを抱える人々への保健活動 (1)		精神保健活動の実際							
第11回	リスクを抱える人々への保健活動 (2)		対象理解～健康のとらえ方							
第12回	リスクを抱える人々への保健活動 (3)		精神障がい者の社会復帰・地域生活支援						レポート	
第13回	健康危機管理状況にある人々への支援 (1)		感染症の動向 (covid-19、結核等)						PBL	
第14回	健康危機管理状況にある人々への支援 (2)		感染症：結核の制度、疾病管理 (結核・HIV、covid-19)						グループワーク	
第15回	歯科保健活動		生涯を通じた歯科保健活動の実際							
評価 方法 及び 評価 基準	1) 2/3以上の出席者につき、出席状況、リフレクションペーパー、定期試験等を組み合わせて総合的に評価する。 2) リフレクションペーパー：全ての授業終了後に提出することで、5%を加算する。 3) 課題 (レポート) : 20% 3) 定期試験 : 75%									
課題等	感想シートなどは、返却しない。									
事前事 後学修	授業で紹介する参考図書は、読むことを勧める。									
教材 教科書 参考書	教科書：対象別公衆衛生看護活動 4版 医学書院 2022 ISBN978-4-260-03187-5 参考図書：厚生統計協会：国民衛生の動向 2022/2023									
留意点	1) 既習科目の「公衆衛生看護学概論」や3年次で学んでいる公衆衛生看護関連の科目と関連付けて主体的に学習する。 2) ニュース等を毎日視聴し、社会で起きていることに関心を持つことが不可欠である。 3) コロナ関連のニュースは、暮らしの場でどのようなことが起きているのかを理解する。									

科目名	学校保健論		科目ナンバリング	N-PH NI 4-06. P P	単位数 時間	1単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	N30056		15時間				
区分	看護実践科目	保健師必修	担当者名	日下 純子 (実務経験のある教員)				授業 形態	講義	単独
	アクティブラーニング	有								
授業の概要	<p>[授業の主旨] 学校という組織の中で、学校教育の目的達成のために機能している「学校保健」と、そこでの養護教諭の役割について学ぶ。「学校保健」が、学校教育を円滑に進めるための心身の条件としてだけでなく、学校教育の目的の一つとして取り上げられ、教育的配慮のもとに展開されることについて理解を深める。さらに、学校保健の変遷を踏まえながら、現状や課題について考察する。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの2、3、4に関連し、カリキュラムポリシーの3-1に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校における人々の健康に関する行政体系・法体系・制度・システムを理解する。 2. 学校における人々の健康の実態を把握し、健康課題を理解できる。 3. 学校における公衆衛生看護活動の実際を理解できる。 									
授 業 計 画										
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）							備考	
第1回	学校保健・看護の動向	学校保健の理念と目的、歴史と現状を理解する。								
第2回	学校保健の制度とシステム	学校保健安全の構成・内容・法規・システムを理解する。								
第3回	学校保健活動（1）	◆演習1：「学校保健の対象の健康」に関するグループワークと発表							ディスカッション プレゼンテーション ディベート	
第4回	学校保健活動（2）	学校保健の対象と健康課題を理解する。								
第5回	学校保健活動（3）	養護教諭の職務を理解する。							ディスカッション プレゼンテーション ディベート	
第6回	学校保健活動（4）	保健室の機能を理解する。								
第7回	学校安全および危機管理	学校環境衛生と学校安全管理を理解する。								
第8回	学校保健における多職種連携	学校保健における他機関・多職種連携の実際を理解する。								
評価方法及び評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1) 2/3以上の出席者につき、出席状況、リフレクションペーパー、定期試験等を組み合わせて総合的に評価する。 2) リフレクションペーパー：全ての授業終了後に提出することで、5点を加算する。 3) 定期試験：試験結果は満点を95%として評価する。 									
課題等	レポートおよび感想シートなどは、返却しない。									
事前事後学修	授業で紹介する参考図書は、読むことを勧める。									
教材教科書参考書	教科書：対象別公衆衛生看護活動：医学書院. 2018 ISBN978-4-260-03187-5 参考図書：①厚生統計協会：国民衛生の動向. 2022/2023									
留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業で紹介された文献を読み、自己学習を進める。 2) 実際の保健医療に関するニュースなどに関心を持ち、学んだことと関連しながら理解を深める。 3) 他の科目で学んだことと関連付けながら、理解を深める。 									

科目名	産業保健論		科目ナンバリング	N-PH NI 4-07.P P	単位数	1単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	N30057	時間	15時間				
区分	看護基礎科目 アクティブラーニング	保健師必修 有	担当者名	日下 純子 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>少子高齢化に伴い生産年齢人口の減少も予測されている。働く人々の健康の保持増進や快適な職場づくりのために、産業保健分野ではどのような看護活動が行われているの理解する。また、歴史的な変遷を踏まえ、産業保健専門職が果たす役割を考える。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2,3,4に関連し、カリキュラムポリシーの3-1に関連している。</p>									
到達 目標	<p>1) 産業の場における健康に関する行政体系・法体系・制度・システムが理解できる。</p> <p>2) 産業の場における人々の健康の実態を把握し、健康課題が理解できる。</p> <p>3) 産業の場における看護活動の実際が理解できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	産業保健の・産業看護の動向			産業保健の役割、歴史と現状 (DVD)産業保健						
第2回	産業保健の制度とシステム			産業保健に関わる法律と関係する社会資源						
第3回	産業保健活動1			産業保健の対象と活動の場					グループワーク	
第4回	産業保健活動2			産業保健の基本と産業看護活動						
第5回	産業保健活動3			変化する社会における労働と健康課題						
第6回	産業保健活動4			職場における健康管理と看護職の役割						
第7回	産業保健活動の場と健康課題			産業の場における健康課題とこれからの産業保健を考える					グループワーク ディスカッション	
第8回	精神保健活動の実際と今後の課題5			産業保健と地域保健の連携						
評価 方法 及び 評価 基準	<p>1) 2/3以上の出席者について、出席状況、リフレクションペーパー、定期試験等を組み合わせて、総合的に評価する。</p> <p>2) リフレクションペーパー：すべての授業終了後に提出することで、5点を加算する。</p> <p>3) 定期試験：試験結果は満点を95%として評価する。</p>									
課題等	レポートおよびリフレクションペーパーは返却しない。									
事前事 後学修	授業で紹介する参考図書を読んでください。									
教材 教科書 参考書	<p>教科書：対象別公衆衛生看護活動 医学書院 2022 ISBN978-4-260-03187-5</p> <p>参考図書：厚生統計協会 国民衛生の動向 2022/2023</p> <p>随時、資料の配布や参考図書を紹介する。</p>									
留意点	<p>1) 授業で紹介された文献を読み、主体的に学修をする。</p> <p>2) 社会の動きに関心を持ち、ニュースなどを読み考え、学んだことと関連させながら理解する努力は不可欠です。</p> <p>3) 他の科目で学んだことと関連させながら、理解する。</p>									

科目名	ヘルスプロモーション論		科目ナンバリング	N-NP NI 4-05. P P	単位数 時 間	1単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	N30055		15時間				
区分	看護実践科目	保健師必修	担当者名	中 尾 八重子 (実務経験のある教員)				授業 形態	講義	単独
	アクティブラーニング	有								
授業の 概要	<p>[授業の主旨] 近年、我が国において重視されているヘルスプロモーションの考え方に基づいた、健康づくり活動について学習する。自治体の具体的な実践活動をもとづいて、理解を深める。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの1、2、3、4、5に関連し、カリキュラムポリシー1-1、2-1、3-1、4-1、5-1に関連している。</p>									
到達 目標	<p>1) ヘルスプロモーションの考え方を説明できる。 2) Health for All の実現に向けた健康政策の進め方や公衆衛生行政の役割を説明できる。 3) 日本における健康づくりの変遷と実際を記述できる。 4) 地域の健康づくり対策を提言することができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容 (授業時間外の学修を含む)					備考	
第1回	ヘルスプロモーションとは			ヘルスプロモーションの基本的な考え方、背景						
第2回	健康増進			一次・二次・三次予防 健康増進法の目的・基本方針						
第3回	ヘルスプロモーションとMIDORI理論			MIDORI理論とは						
第4回	地域の健康づくり対策 (1)			演習：健康問題とその背景 (MIDORI理論活用)					グループワーク	
第5回	地域の健康づくり対策 (2)			演習：対策の考え方 (MIDORI理論活用)					グループワーク	
第6回	地域の健康づくり対策 (3)			演習：健康問題解決に向けた対策					グループワーク	
第7回	地域の健康づくり対策 (4)			発表 課題：地域における健康づくり					プレゼンテーション	
第8回	日本における健康づくり			日本の健康づくりの変遷 健康日本21 健やか親子21						
評価 方法 及び 評価 基準	<p>1) 2/3以上の出席者につき、演習への取り組みとその成果、課題 (レポート)、定期試験等から総合的に評価。 2) 演習：30% 3) 課題 (レポート)：10% 4) 定期試験：60%</p>									
課題等	課題 (レポート) は、返却しない。									
事前事 後学修	授業で紹介する参考図書は、読むことをお勧めする。									
教材 教科書 参考書	教科書：標準保健師講座2 公衆衛生看護技術第5版、医学書院、2023 ISBN978-4-260-05002-9 授業の中で、随時、参考図書を紹介する。									
留意点	<p>1) 演習に主体的に取り組む、チームの一員として他のメンバーと協働で取り組むこと。 2) 公衆衛生および公衆衛生看護と関連する他の科目で学んだことと関連させ、理解を深める。</p>									